

# 「高齢者の社会保障に関する意識調査」

## とりまとめ報告書

令和6（2024）年11月

一般財団法人 長寿社会開発センター



# はじめに

政府は、令和元年9月に全世代型社会保障検討会議を設置し、人生100年時代の到来を見据えながら、お年寄りだけではなく、子供たち、子育て世代、さらには現役世代まで広く安心を支えていくため、年金、労働、医療、介護、少子化対策など、社会保障全般にわたる持続可能な改革を検討してきました。

社会保障については、「給付と負担」のバランスを背景に、「給付は高齢者中心、負担は現役世代を中心」という考え方から、能力に応じて全世代が支え合う「全世代型社会保障」の構築が進んでいます。

一方で、2024年度の我が国の社会保障の給付の現状をみると、給付では「年金61.7兆円（44.8%）」「医療42.8兆円（31.0%）」「福祉その他33.4兆円（24.2%（うち「介護13.9兆円（10.1%）」、「こども・子育て10.8兆円（7.8%）」）」（厚生労働省：社会保障の給付と負担の現状（2024年度予算ベース））の合計が約138兆円となっており、2023年度の合計約134兆円（厚生労働省：社会保障の給付と負担の現状（2023年度予算ベース））と比較すると約4兆円増加し、それに伴い国民の保険料や公費といった「負担」も約131兆円から約135兆円と約4兆円増加しているのが現状となっています。

また、令和6年度版高齢社会白書によると、日本の総人口は、令和5年10月1日現在、1億2,435万人、65歳以上人口は、3,623万人、総人口に占める65歳以上の人口割合は29.1%となっており、今後も引き続き高齢者の増加が見込まれることから、今後の社会保障において高齢者の考えを把握することは重要と考え、当センターでは、65歳以上の方が、社会保障や現政権下の政策について、どのように考えているのかを明らかにすることを目的に意識調査を行いました。

調査結果の詳細については、本報告書をご覧いただきたいが、「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度をみると、「医療および医療保険制度」では、「満足」の占める割合が高く、「公的年金制度」「介護保険制度」では、「不満」の占める割合が高い結果がみられました。

また、それぞれの「不満」の理由は、「公的年金制度」では「公的年金だけでは生活が厳しい」、「医療および医療保険制度」「介護保険制度」では共に「月々納付している保険料が高い」が上位をしめていたことから、「負担」に関する不満の占める割合が高い結果がみられました。

今回の調査結果は、65歳以上の高齢者の貴重な回答となっているため、今後の施策を考えるうえで参考となれば幸いです。

令和6（2024）年11月

一般財団法人 長寿社会開発センター



# 目次

<b>(1) 調査概要</b>	1
1. 背景と目的	1
2. 実施方法等	1
1) 調査対象	1
2) 調査方法	1
3) 倫理的配慮	1
3. 調査結果（総括）	2
<b>(2) 調査結果</b>	11
1. 調査協力者の同意等	11
2. 性別	12
3. 年齢	13
4. 就労の有無	14
5. 公的介護保険サービスの利用状況	16
6. 世帯構成（同居している方）	17
7. 居住形態	18
8. 公的年金制度の満足度	19
9. 「やや不満」「不満」と回答した理由	20
10. 医療および医療保険制度の満足度	24
11. 「やや不満」「不満」と回答した理由	25
12. 介護保険制度の満足度	29
13. 「やや不満」「不満」と回答した理由	30
14. 今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランス	32
15. 社会保障における高齢者と現役世代の負担のあり方	33
16. 優先すべき消費税の使い道	36
17. 高齢者の年齢	40
18. 定額減税	41
19. マイナ保険証一本化	42
20. 「反対」「大いに反対」と回答した理由	43
21. こども・子育て政策	44
22. 現在の政府に対する信頼感	45
23. 「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由	46
24. 現在の生活に対する満足度	47
25. あと何年生きていきたいか	49
26. もっとも充実していたと思う年代	52
<b>(3) 調査票</b>	54



## (1) 調査概要

### 1. 背景と目的

近年、我が国は少子高齢化に伴う過去に類を見ない人口減少社会に突入し、それらに対処することが今日の喫緊の課題となっている。社会保障については、年金、医療、介護に加え、こども・子育てへの給付の拡充や、「給付と負担」のバランスを背景に、「給付は高齢者中心、負担は現役世代を中心」という考え方から、能力に応じて全世代が支え合う「全世代型社会保障」の構築が進んでいる。

一方で、2024年度の我が国の社会保障の給付の現状をみると、「年金」「医療」「福祉その他」の合計が約138兆円（厚生労働省：社会保障の給付と負担の現状（2024年度予算ベース））となっており、2023年度の約134兆円（厚生労働省：社会保障の給付と負担の現状（2023年度予算ベース））と比較すると約4兆円増加し、それに伴い国民の保険料や公費といった「負担」も増加しているのが現状となっている。

また、令和6年度版高齢社会白書によると、日本の総人口は、令和5年10月1日現在、1億2,435万人、65歳以上人口は、3,623万人、総人口に占める65歳以上の人口割合は29.1%となっており、今後も引き続き高齢者の増加が見込まれることから、今後の社会保障において高齢者の考えを把握することは重要と考えた。

そこで今回、65歳以上の高齢者の方を対象に、社会保障や現政権下の政策について、どのように考えているのかを明らかにすることを目的に意識調査を行った。

### 2. 実施方法等

#### 1) 調査対象

以下の全てに該当する方。

- ・ 調査実施期間中に調査会社に登録している65歳以上の高齢者。
- ・ 本調査に関し、調査協力者自身の同意が得られる方。
- ・ 回答後の同意の撤回は難しいことにも承諾いただける方。

#### 2) 調査方法

- ・ Web会社に登録している調査対象者を対象に、Web調査で実施。
- ・ 調査期間は、令和6（2024）年8月15日
- ・ 有効回答数1,121件（回答数1,121）

#### 3) 倫理的配慮

- ・ 本調査は、一般財団法人長寿社会開発センター研究倫理審査委員会の承認を得て実施（承認番号：2024-02）。

### 3. 調査結果（総括）

#### 【回答者の属性】

※本調査はWeb調査で実施したため、回答者はWeb利用者層であることに留意。

#### ○ 性別・年齢

性別は、「男性」が80.6%で約8割を占めている。

年齢は、「65～74歳」の前期高齢者が49.2%、「75歳以上」の後期高齢者が50.8%であった。 [Q2.3]

表：性別（Q2）

	N	%
女性	217	19.4%
男性	<u>903</u>	<u>80.6%</u>
その他	1	0.1%
合計	1121	100.0%

表：年齢（Q3）

	N	%
65～74歳	<u>552</u>	<u>49.2%</u>
75～84歳	545	48.6%
85～94歳	21	1.9%
95歳以上	3	0.3%
合計	1121	100.0%

#### ○ 就労の有無・公的の介護保険サービスの利用状況

就労の有無は、「仕事はしていない」が72.3%で約7割を占めている。

公的の介護保険サービスの利用状況については、「利用していない」が97.0%であった。 [Q4.5]

表：就労の有無（Q4）

	N	%
仕事をしている	310	27.7%
仕事はしていない	<u>811</u>	<u>72.3%</u>
合計	1121	100.0%

表：公的の介護保険サービスの利用状況（Q5）

	N	%
利用している	34	3.0%
利用していない	1087	97.0%
合計	1121	100.0%

【「社会保障」に関する高齢者の考え】

○ 「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度

「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度については、「医療および医療保険制度」では、「満足」（63.7%）の占める割合が高く、「公的年金制度」「介護保険制度」では、「不満」（54.8%、58.8%）の占める割合が高い。

それぞれの「不満」の理由は、「公的年金制度」（不満：54.8%）では「公的年金だけでは生活が厳しい」（76.4%）、「医療および医療保険制度」（不満：36.3%）では「月々納付している医療保険料が高い」（83.8%）、「介護保険制度」（不満：58.8%）では「月々納付している介護保険料が高い」（90.4%）が最も多かった。[Q8～13]

表：「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度（Q8.10.12）

	公的年金制度		医療および医療保険制度		介護保険制度	
	N	%	N	%	N	%
満足	506	45.1%	714	63.7%	462	41.2%
不満	615	54.8%	407	36.3%	659	58.8%
合計	1121	100.0%	1121	100.0%	1121	100.0%

表：「公的年金制度」の「不満」の理由（Q9）

	N	%
公的年金だけでは生活が厳しい	470	76.4%
納付した保険料の割に、もらえる金額が少ない	326	53.0%
公的年金の支給は毎月としてほしい	137	22.3%
制度に不信感を持っている	130	21.1%
制度が複雑で分かりづらい	122	19.8%
公的年金の請求手続きが煩雑すぎる	45	7.3%
公的年金の受給要件を得るまでの期間がながい	32	5.2%
その他	19	3.1%
合計	615	100.0%

表：「医療および医療保険制度」の「不満」の理由（Q11）

	N	%
月々納付している医療保険料が高い	341	83.8%
医療を受ける時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる	222	54.5%
制度が複雑で分かりづらい	67	16.5%
マイナ保険証を強制的に使用させようとする医療機関等がある	63	15.5%
薬の受け取りに手間がかかる	38	9.3%
医療機関等を受診したい時に受診できない	23	5.7%
医師や看護師の質が悪い	12	2.9%
受付（窓口）の対応が悪い	2	0.5%
その他	11	2.7%
合計	407	100.0%

表：「介護保険制度」の「不満」の理由（Q13）

	N	%
月々納付している介護保険料が高い	596	90.4%
制度が複雑で分かりづらい	222	33.7%
サービスを使用する時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる	188	28.5%
1か月あたりの利用できるサービス量（支給限度額）が少ない	93	14.1%
サービスを利用したい時に利用できない	77	11.7%
サービスの質が悪い	32	4.9%
その他	15	2.3%
合計	659	100.0%

○ 社会保障の「給付」と「負担」のバランス

今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランスについては、「社会保障の給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」が37.3%で最も多く、次いで「社会保障の給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき」が26.8%であった。[Q14]

表：社会保障の「給付」と「負担」のバランス（Q14）

	N	%
社会保障の給付水準を大幅に引き下げて、負担を減らすことを優先すべき	197	17.6%
社会保障の給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき	300	26.8%
社会保障の給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない	418	37.3%
社会保障の給付水準を引き上げるために、大幅な負担の増加もやむを得ない	26	2.3%
わからない	180	16.1%
合計	1121	100.0%

## ○ 高齢者と現役世代の負担のあり方

高齢者と現役世代の負担のあり方については、「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」が48.4%で最も多く、次いで「高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない」が23.2%であった。〔Q15〕

表：高齢者と現役世代の負担のあり方（Q15）

	N	%
高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない	260	23.2%
全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない	543	48.4%
現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない	157	14.0%
わからない	161	14.4%
合計	1121	100.0%

## ○ 優先すべきと考える、消費税の使い道

優先すべきと考える、消費税の使い道については、「年金」が42.4%で最も多く、次いで「医療」が25.6%、「子ども・子育て支援」が19.4%であった。〔Q16〕

表：優先すべきと考える、消費税の使い道（Q16）

	N	%
年金	475	42.4%
医療	287	25.6%
介護	141	12.6%
子ども・子育て支援	218	19.4%
合計	1121	100.0%

## 【「現政権下の政策等」に関する高齢者の考え】

### ○ 定額減税

定額減税については、「どちらともいえない」が最も多く44.4%であった。なお、「賛成」「反対」の2類型に着目してみると、「賛成」は32.0%、「反対」は23.5%となっており、「賛成」の占める割合が高い。[Q18]

表：定額減税（Q18）

	N	%	
大いに賛成	81	7.2%	} 32.0%
賛成	278	24.8%	
どちらともいえない	498	44.4%	
反対	172	15.3%	} 23.5%
大いに反対	92	8.2%	
合計	1121	100.0%	

### ○ マイナ保険証一本化

マイナ保険証一本化については、「どちらともいえない」が最も多く29.3%であった。

なお、「賛成」「反対」の2類型に着目してみると、「賛成」は38.2%、「反対」は32.5%となっており、「賛成」の占める割合が高い。

「反対」「大いに反対」と回答した理由は、「情報漏洩に対する不安」が30.2%で最も多く、次いで「インフラ整備が整っていないと使えないため」が18.7%、「受診時に持ち歩くのに抵抗がある」が12.9%、「別人情報への紐づけ事案に対する不安」が11.5%であった。[Q19.20]

表：マイナ保険証一本化（Q19）

	N	%	
大いに賛成	105	9.4%	} 38.2%
賛成	323	28.8%	
どちらともいえない	329	29.3%	
反対	175	15.6%	} 32.5%
大いに反対	189	16.9%	
合計	1121	100.0%	

表：「反対」「大いに反対」と回答した理由（Q20）

	N	%
情報漏洩に対する不安	110	30.2%
インフラ整備が整っていないと使えないため	68	18.7%
受診時に持ち歩くのに抵抗がある	47	12.9%
別人情報への紐づけ事案に対する不安	42	11.5%
災害時等、オフラインでは使用ができないため	30	8.2%
紛失した際に、再発行に時間を要する	21	5.8%
マイナ保険証として使用するための手続きが煩雑	21	5.8%
その他	25	6.9%
合計	364	100.0%

○ こども・子育て政策

「こども・子育て政策」が少子化対策に効果があるかについては、「変わらない」が38.3%で最も多い。

なお、「効果があると思う」「効果はないと思う」の2類型に着目してみると、「効果があると思う」は17.5%、「効果はないと思う」は44.1%となっており、「効果がないと思う」の占める割合が高い。 [Q21]

表：こども・子育て政策（Q21）

	N	%
とても効果があると思う	6	0.5%
効果があると思う	191	17.0%
変わらない	429	38.3%
効果はないと思う	369	32.9%
まったく効果はないと思う	126	11.2%
合計	1121	100.0%

17.5%

44.1%

## ○ 政府に対する信頼感

現在の政府に対する、信頼感については、「信頼していない」が35.8%で最も多い。

なお、「信頼している」「信頼していない」の2類型に着目してみると、「信頼している」は10.0%、「信頼していない」は61.0%となっており、「信頼していない」の占める割合が高い。

「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由については、「自己利益を追求する政治家が多いため」が35.1%で最も多く、次いで「国民の生活実態を理解していない」が25.3%、「公費の使い方に疑問を感じているため」が18.3%、「不祥事（裏金等）が多いため」が13.5%であった。[Q22.23]

表：政府に対する信頼感（Q22）

	N	%	
とても信頼している	5	0.4%	} 10.0%
信頼している	108	9.6%	
どちらともいえない	325	29.0%	
信頼していない	401	35.8%	} 61.0%
まったく信頼していない	282	25.2%	
合計	1121	100.0%	

表：「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由（Q23）

	N	%
自己利益を追求する政治家が多いため	240	35.1%
国民の生活実態を理解していない	173	25.3%
公費の使い方に疑問を感じているため	125	18.3%
不祥事（裏金等）が多いため	92	13.5%
政策に偏りがある	22	3.2%
経済が一向に良くならないため	19	2.8%
その他	12	1.8%
合計	683	100.0%

## ○ 現在の生活に対する満足度

現在の生活に対する満足度については、「まあ満足している」が56.3%で最も多い。

なお、「満足」「不満」の2類型に着目してみると、「満足」は60.8%、「不満」は39.2%となっており、「満足」の占める割合が高い。[Q24]

表：現在の生活に対する満足度（Q24）

	N	%	
満足している	50	4.5%	} 60.8%
まあ満足している	631	56.3%	
やや不満	332	29.6%	} 39.2%
不満	108	9.6%	
合計	1121	100.0%	

## (2) 調査結果

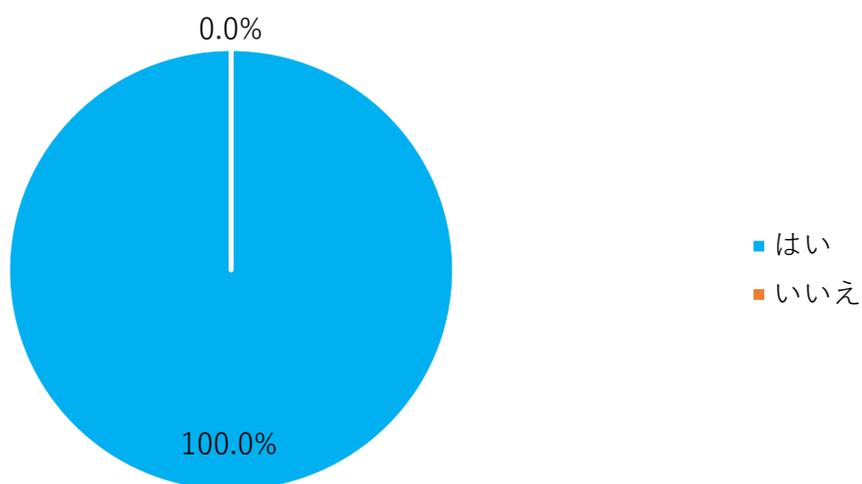
※一部の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

Q1.この調査の説明を読んだ上で、調査に協力しますか。なお、本調査は無記名であるため、調査回答後に申し出られた場合には個人の特定は不可能であり、同意撤回はできません。

[SA] (N = 1,121)

	N	%
はい	1121	100.0%
いいえ	0	0.0%
合計	1121	100.0%

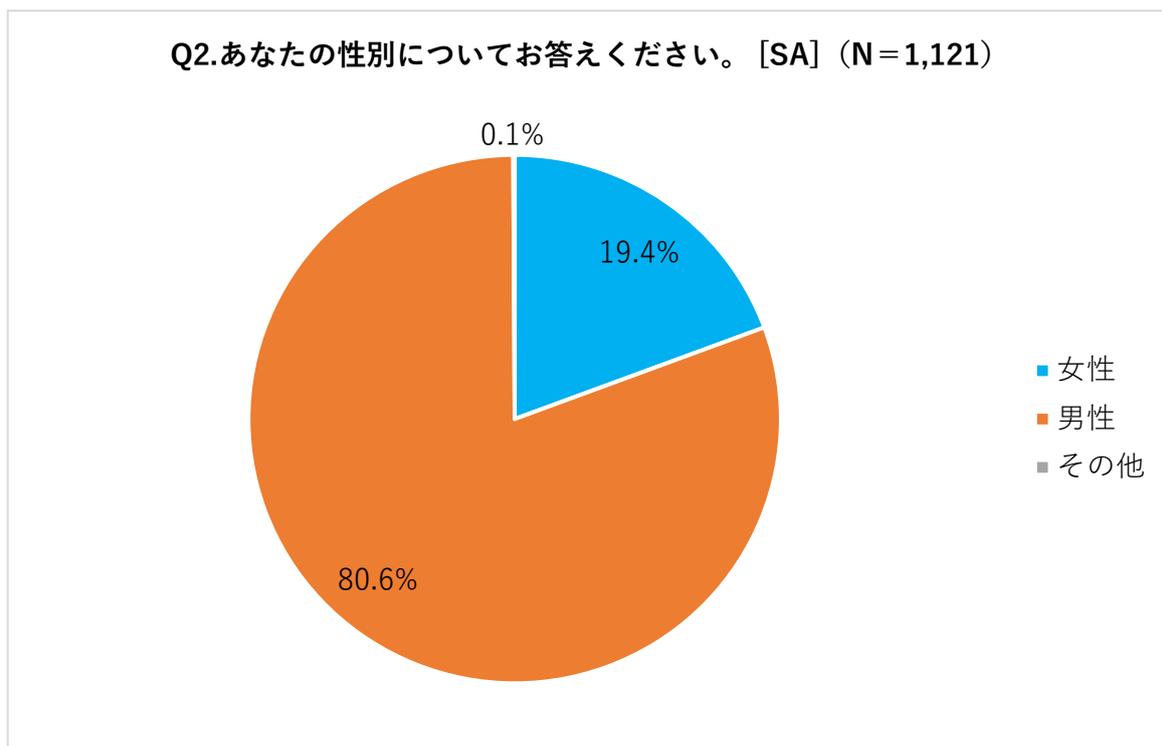
Q1.この調査の説明を読んだ上で、調査に協力しますか。なお、本調査は無記名であるため、調査回答後に申し出られた場合には個人の特定は不可能であり、同意撤回はできません。 [SA] (N = 1,121)



Q2.あなたの性別についてお答えください。 [SA] (N=1,121)

回答者の性別は、「男性」が80.6%で約8割を占めている。

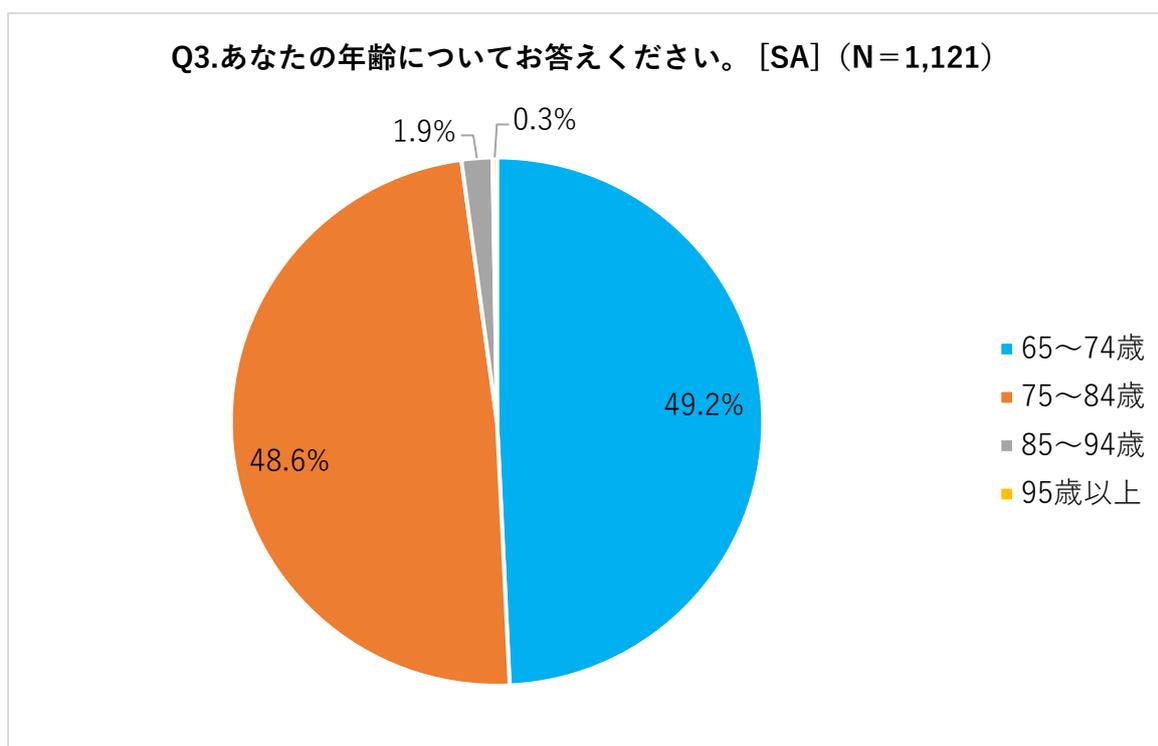
	N	%
女性	217	19.4%
男性	903	80.6%
その他	1	0.1%
合計	1121	100.0%



**Q3.あなたの年齢についてお答えください。 [SA] (N=1,121)**

回答者の年齢は、「65～74歳」の前期高齢者が49.2%、「75歳以上」の後期高齢者が50.8%であった。

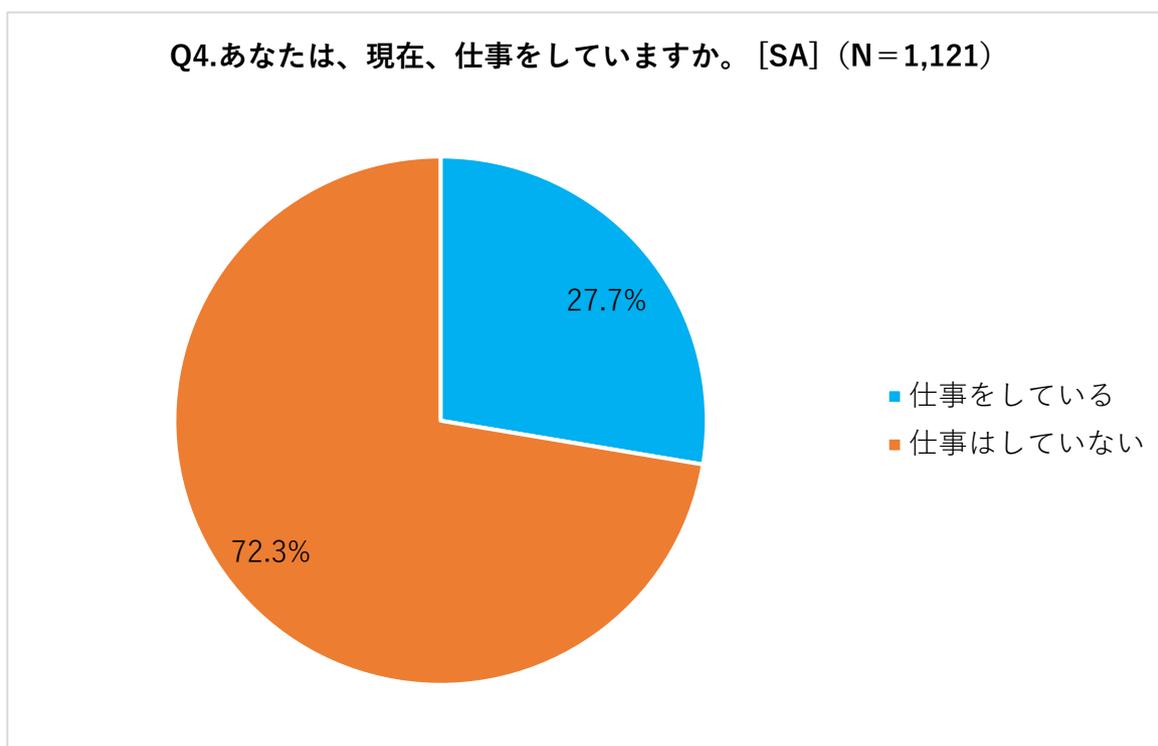
	N	%
65～74歳	552	49.2%
75～84歳	545	48.6%
85～94歳	21	1.9%
95歳以上	3	0.3%
合計	1121	100.0%



#### Q4.あなたは、現在、仕事をしていますか。 [SA] (N=1,121)

回答者の就労の有無は、「仕事はしていない」が72.3%で約7割を占めている。

	N	%
仕事をしている	310	27.7%
仕事はしていない	<u>811</u>	<u>72.3%</u>
合計	1121	100.0%



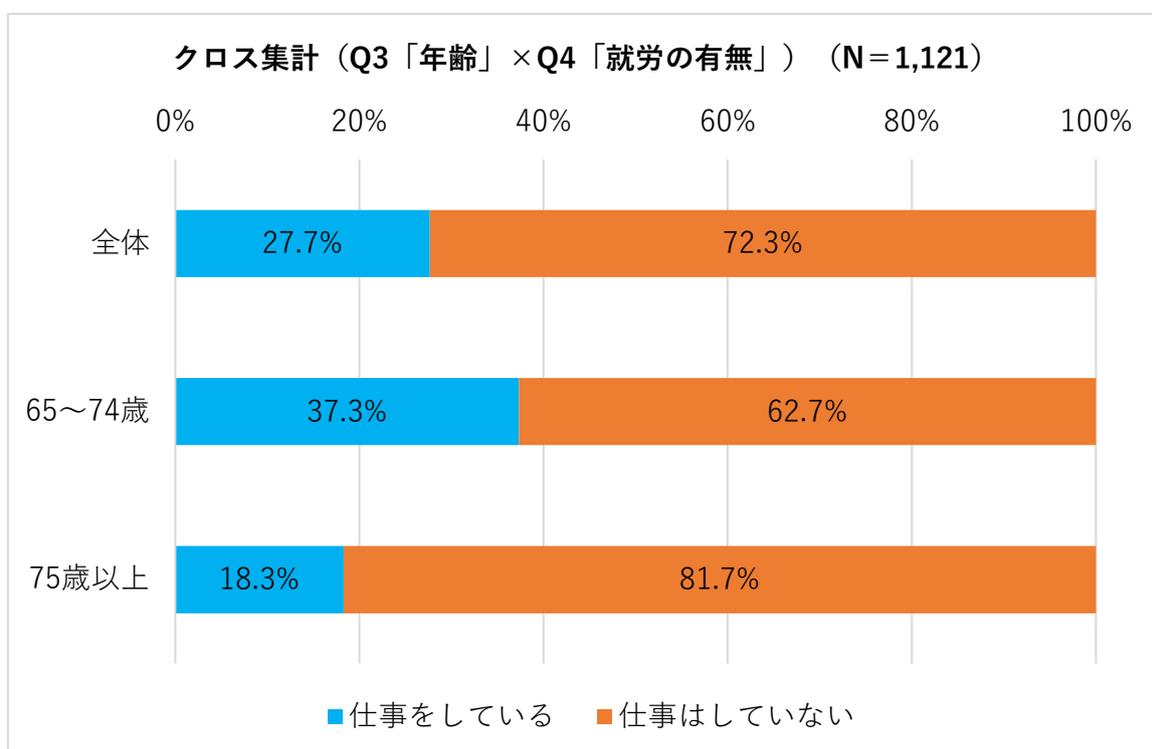
クロス集計（Q3「年齢」×Q4「就労の有無」）（N=1,121）

年齢別に就労の有無をみると、「仕事はしていない」の占める割合は、「65～74歳」（62.7%）よりも「75歳以上」（81.7%）の方が高い。

また、「仕事をしている」は、「65～74歳」（37.3%）では約3人に1人、「75歳以上」（18.3%）では約5人に1人であった。

	全体	仕事をして いる	仕事はし ていない
全体	1121	310	811
	100.0%	27.7%	72.3%
65～74歳	552	206	346
	100.0%	37.3%	62.7%
75歳以上	569	104	465
	100.0%	18.3%	81.7%

カイ2乗検定：p<.05

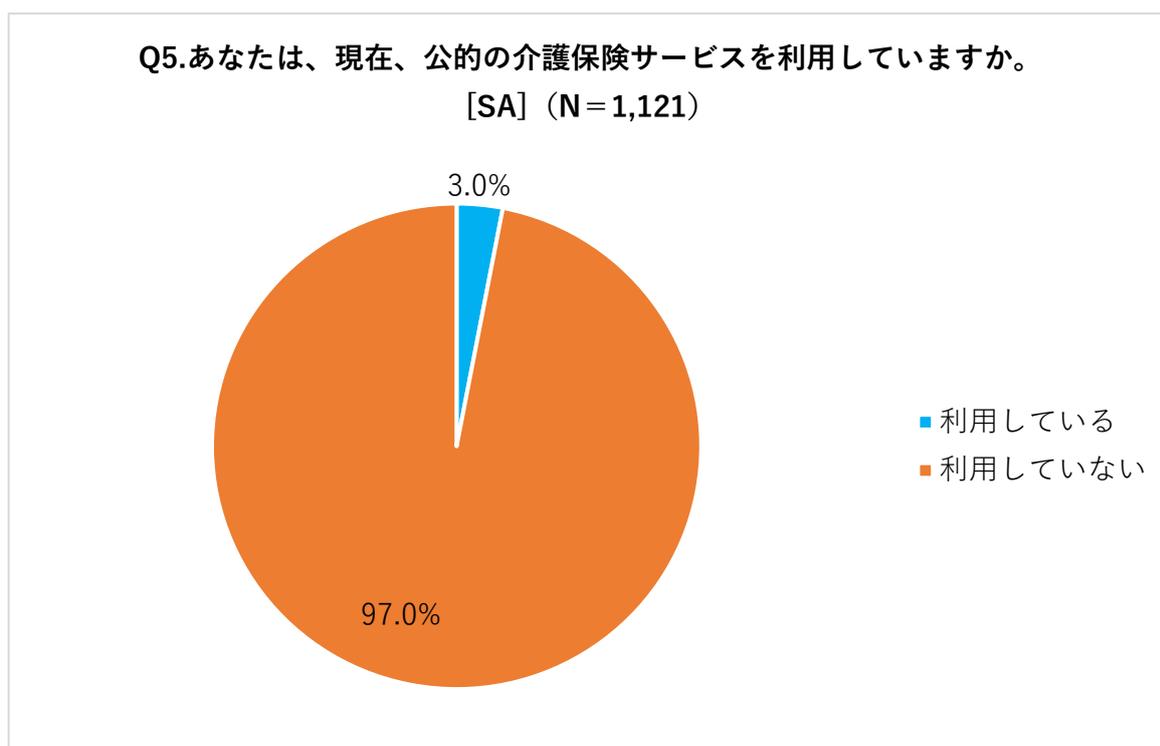


（参考）令和5年の労働力人口比率（人口に占める労働力人口の割合）を見ると、65～69歳では53.5%、70～74歳では34.5%となっており、いずれも上昇傾向である。75歳以上は11.5%となり、平成27年以降上昇している（内閣府「令和6年度版高齢社会白書 第2節高齢期の暮らしの動向 1就業・所得（1）労働力人口に占める65歳以上の者の比率は上昇傾向」より）

**Q5.あなたは、現在、公的の介護保険サービスを利用していますか。 [SA] (N=1,121)**

回答者の介護保険サービスの利用状況については、「利用していない」が97.0%であった。

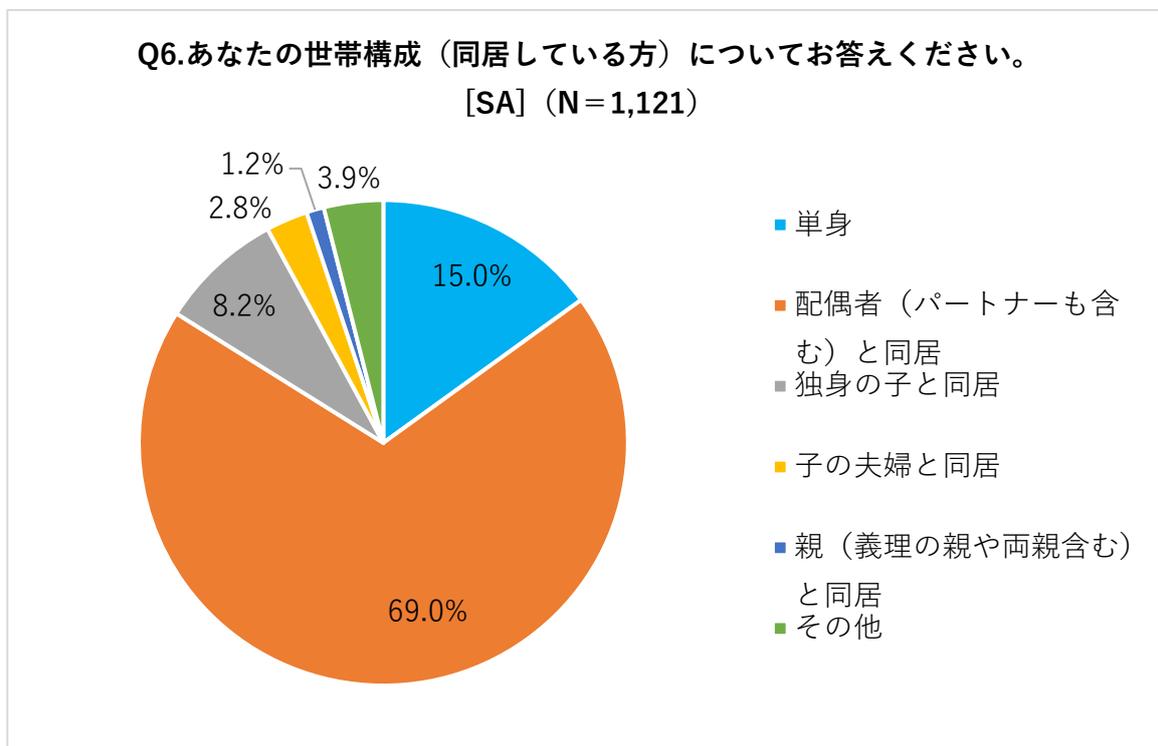
	N	%
利用している	34	3.0%
利用していない	1087	97.0%
合計	1121	100.0%



**Q6.あなたの世帯構成（同居している方）についてお答えください。[SA]（N=1,121）**

回答者の世帯構成（同居している方）は、「配偶者（パートナーも含む）と同居」が69.0%で最も多く、次いで「単身」が15.0%、「独身の子と同居」が8.2%であった。

	N	%
単身	168	15.0%
配偶者（パートナーも含む）と同居	773	69.0%
独身の子と同居	92	8.2%
子の夫婦と同居	31	2.8%
親（義理の親や両親含む）と同居	13	1.2%
その他	44	3.9%
合計	1121	100.0%

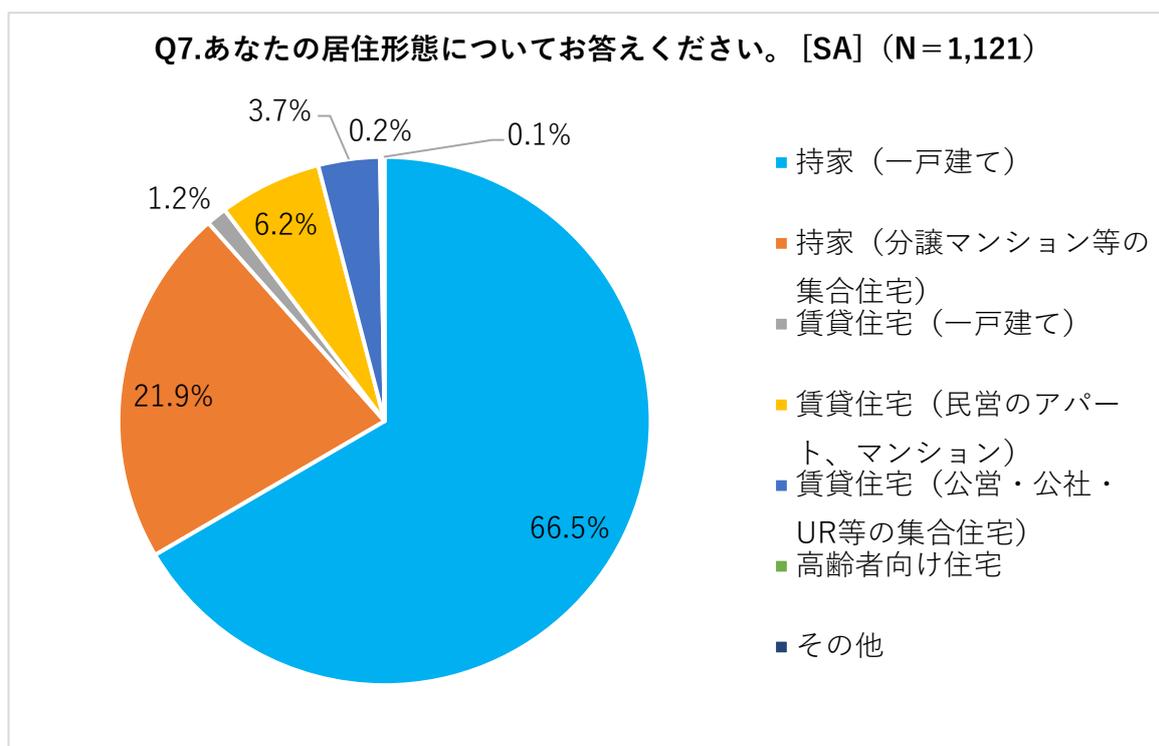


**Q7.あなたの居住形態についてお答えください。[SA] (N=1,121)**

回答者の居住形態は、「持家（一戸建て）」が66.5%で最も多く、次いで「持家（分譲マンション等の集合住宅）」が21.9%、「賃貸住宅（民営のアパート、マンション）」が6.2%であった。

なお、「持家（一戸建て・分譲マンション等の集合住宅）」が88.4%で約9割を占めている。

	N	%
持家（一戸建て）	746	66.5%
持家（分譲マンション等の集合住宅）	246	21.9%
賃貸住宅（一戸建て）	14	1.2%
賃貸住宅（民営のアパート、マンション）	70	6.2%
賃貸住宅（公営・公社・UR等の集合住宅）	42	3.7%
高齢者向け住宅	2	0.2%
その他	1	0.1%
合計	1121	100.0%



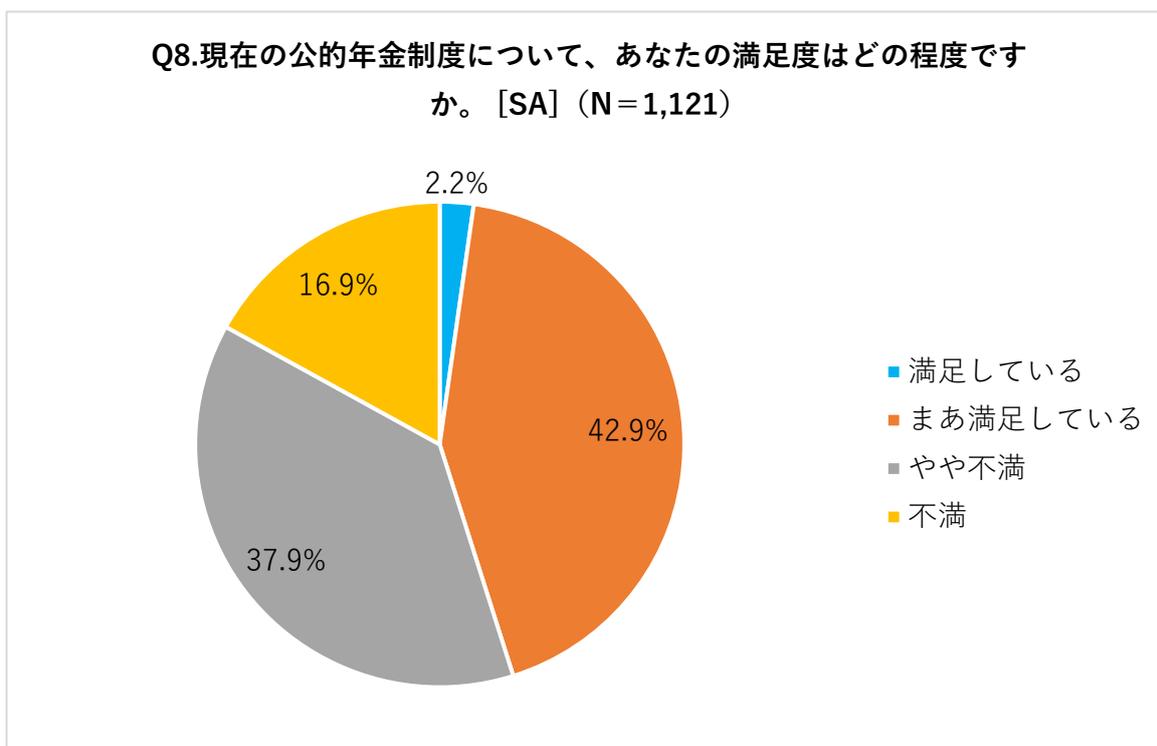
**Q8.現在の公的年金制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。 [SA] (N=1,121)**

公的年金制度の満足度については、「まあ満足している」が最も多く42.9%であった。  
なお、「満足」「不満」の2類型に着目してみると、「満足」は45.1%、「不満」は54.8%となっており、「不満」の占める割合が高い。

	N	%
満足している	25	2.2%
まあ満足している	481	42.9%
やや不満	425	37.9%
不満	190	16.9%
合計	1121	100.0%

満足している (2.2%) + まあ満足している (42.9%) = 45.1%

やや不満 (37.9%) + 不満 (16.9%) = 54.8%

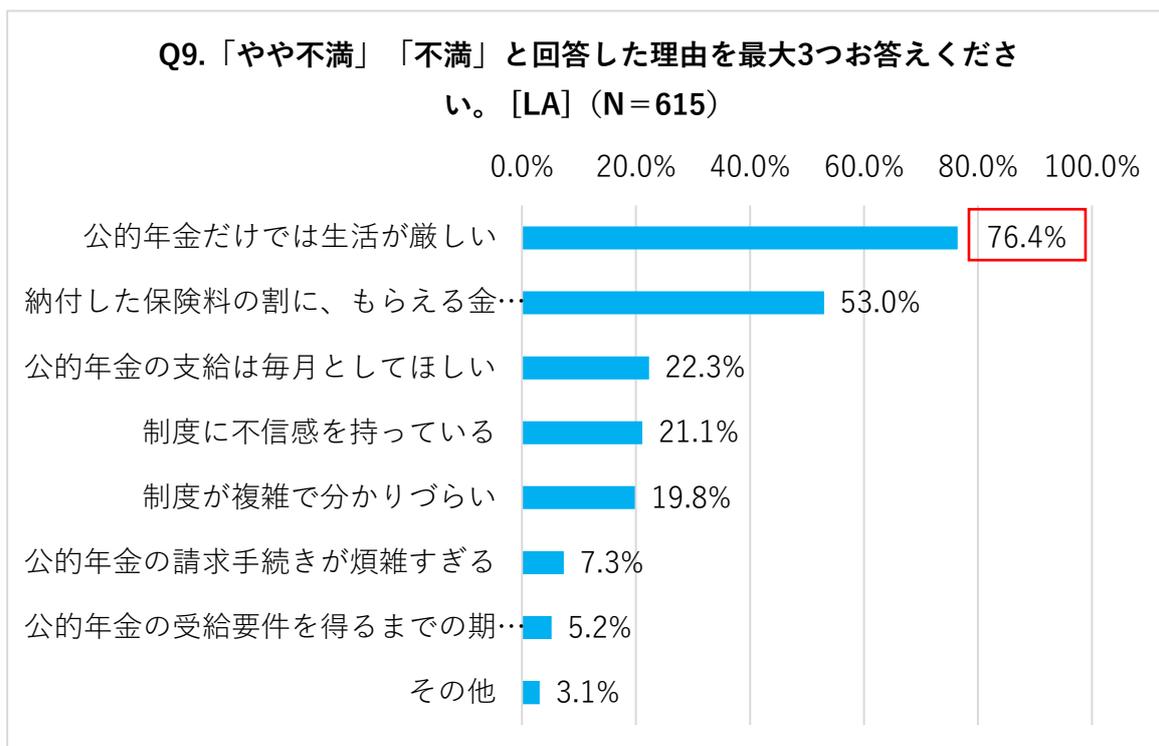


**Q9. 「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。 [LA] (N=615)**

「やや不満」「不満」と回答した理由は、「公的年金だけでは生活が厳しい」が76.4%で最も多く、次いで「納付した保険料の割に、もらえる金額が少ない」が53.0%、「公的年金の支給は毎月としてほしい」が22.3%、「制度に不信感を持っている」が21.1%であった。

また、その他の回答としては、「年金から天引きされる保険料等が高い」といった回答が多くみられた。

	N	%
公的年金だけでは生活が厳しい	470	76.4%
納付した保険料の割に、もらえる金額が少ない	326	53.0%
公的年金の支給は毎月としてほしい	137	22.3%
制度に不信感を持っている	130	21.1%
制度が複雑で分かりづらい	122	19.8%
公的年金の請求手続きが煩雑すぎる	45	7.3%
公的年金の受給要件を得るまでの期間がながい	32	5.2%
その他	19	3.1%
合計	615	100.0%



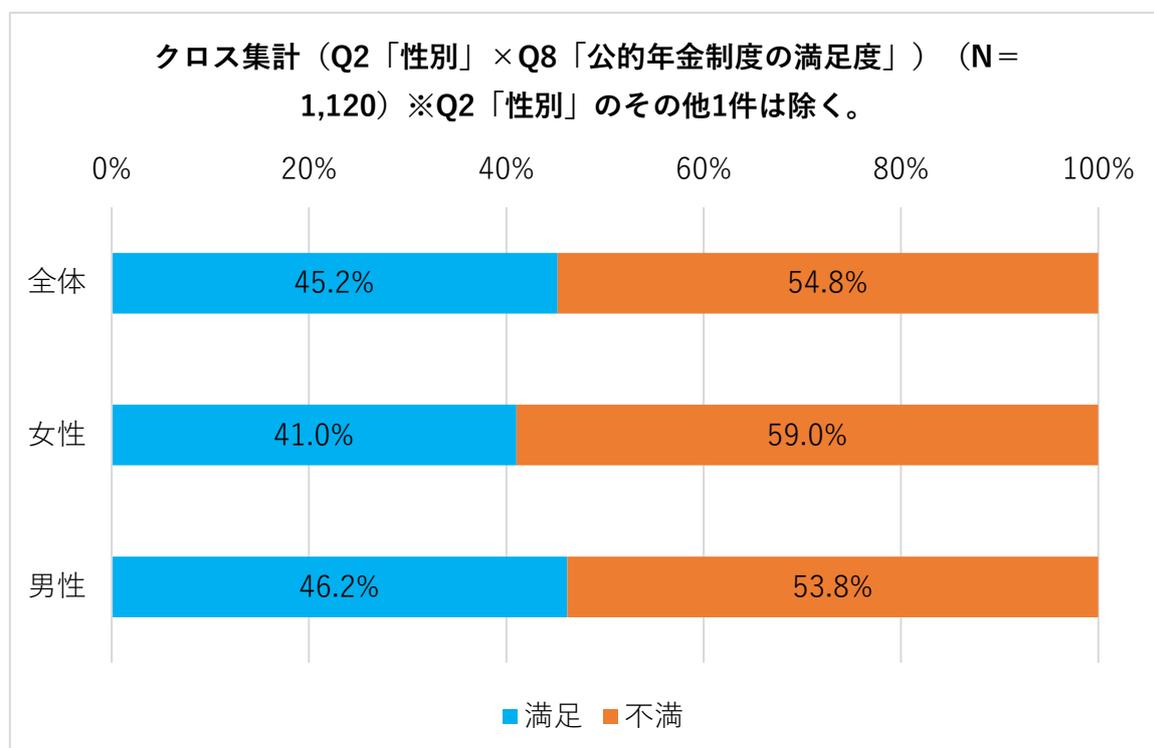
クロス集計（Q2「性別」×Q8「公的年金制度の満足度」）（N=1,120）※Q2「性別」のその他1件は除く。

男女別に公的年金制度の満足度をみると、いずれにおいても「不満」の占める割合が高い。

なお、「不満」の占める割合は、「男性」（53.8%）よりも「女性」（59.0%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1120	506	614
	100.0%	45.2%	54.8%
女性	217	89	128
	100.0%	41.0%	59.0%
男性	903	417	486
	100.0%	46.2%	53.8%

カイ2乗検定：p>.05



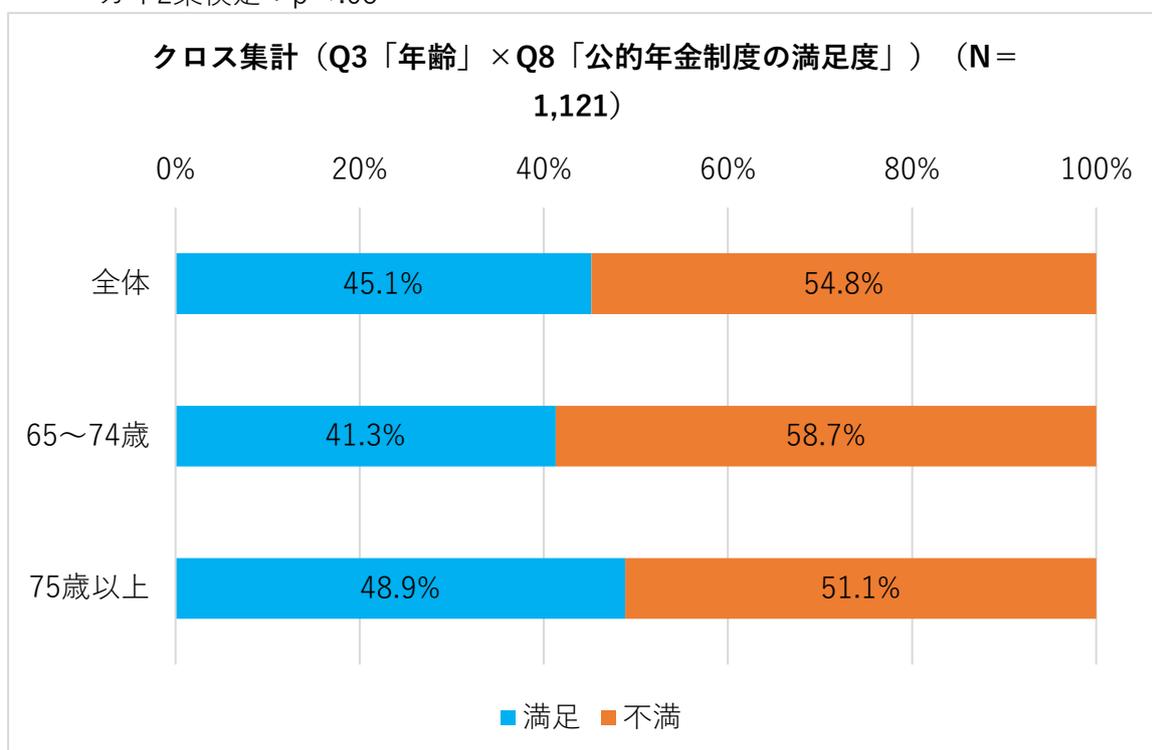
クロス集計（Q3「年齢」×Q8「公的年金制度の満足度」）（N=1,121）

年齢別に公的年金制度の満足度をみると、いずれにおいても「不満」の占める割合が高い。

なお、「不満」の占める割合は、「75歳以上」（51.1%）よりも「65～74歳」（58.7%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1121	506	615
	100.0%	45.1%	54.8%
65～74歳	552	228	324
	100.0%	41.3%	<u>58.7%</u>
75歳以上	569	278	291
	100.0%	48.9%	<u>51.1%</u>

カイ2乗検定：p<.05



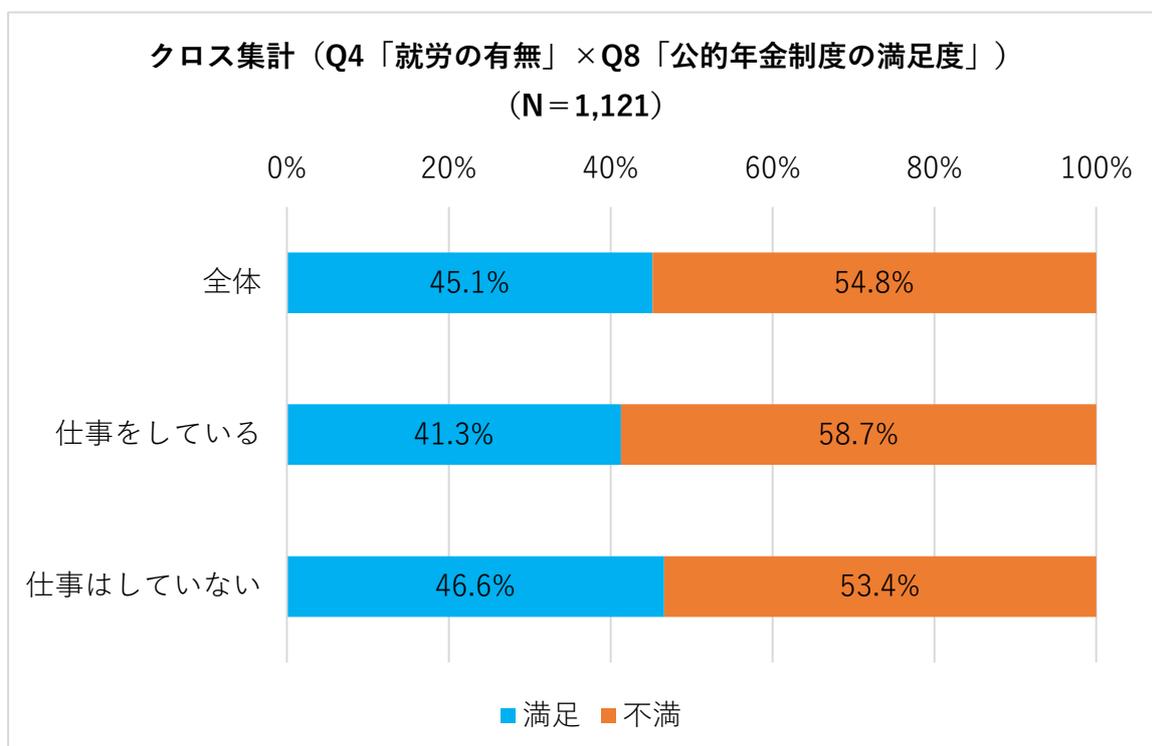
クロス集計（Q4「就労の有無」×Q8「公的年金制度の満足度」）（N=1,121）

就労の有無別に公的年金制度の満足度をみると、いずれにおいても「不満」の占める割合が高い。

なお、「不満」の占める割合は、「仕事はしていない」（53.4%）よりも「仕事をしている」（58.7%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1121	506	615
	100.0%	45.1%	54.8%
仕事をしている	310	128	182
	100.0%	41.3%	<u>58.7%</u>
仕事はしていない	811	378	433
	100.0%	46.6%	<u>53.4%</u>

カイ2乗検定：p>.05



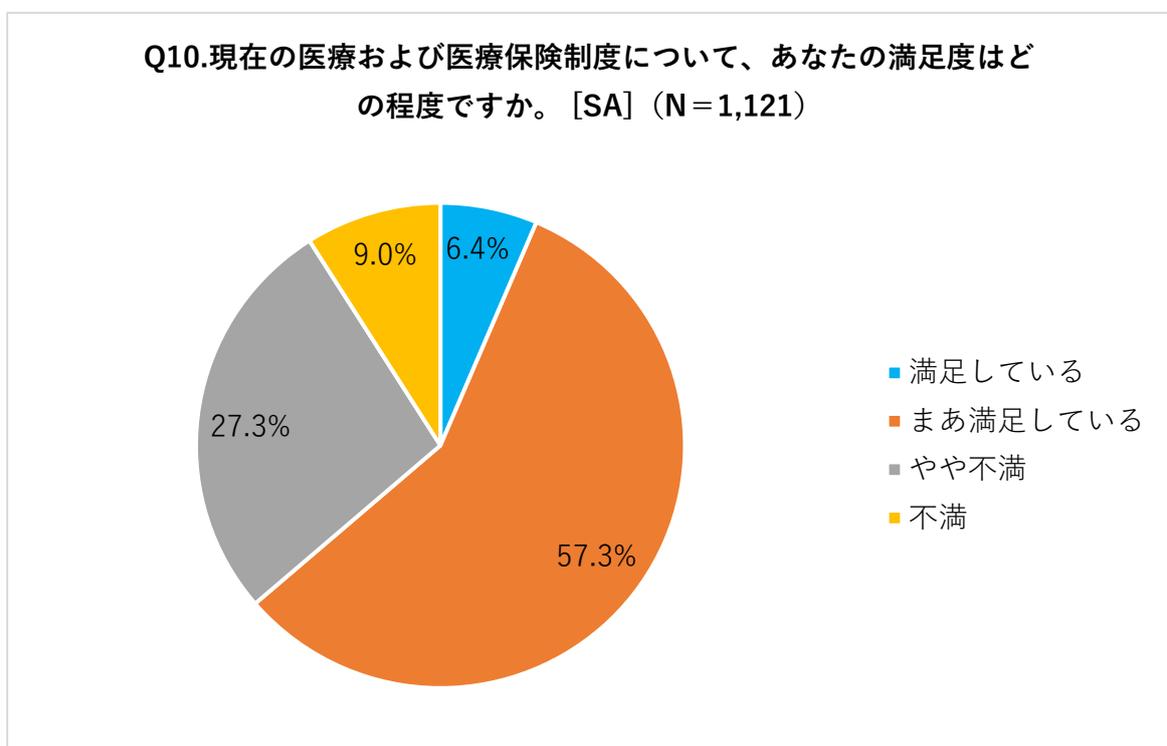
**Q10.現在の医療および医療保険制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。 [SA] (N =1,121)**

医療および医療保険制度の満足度については、「まあ満足している」が最も多く57.3%であった。

なお、「満足」「不満」の2類型に着目してみると、「満足」は63.7%、「不満」は36.3%となっており、「満足」の占める割合が高い。

	N	%
満足している	72	6.4%
まあ満足している	642	57.3%
やや不満	306	27.3%
不満	101	9.0%
合計	1121	100.0%

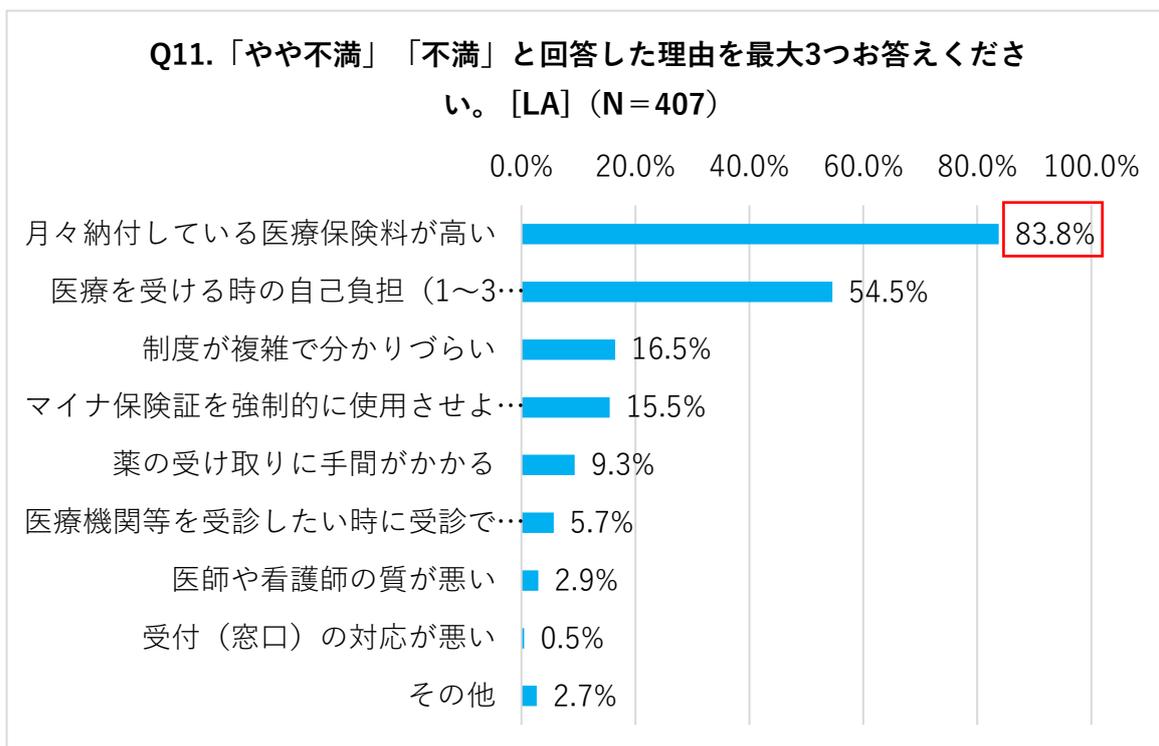
満足している (6.4%) と まあ満足している (57.3%) を合わせて 63.7% と示されています。  
やや不満 (27.3%) と 不満 (9.0%) を合わせて 36.3% と示されています。



**Q11. 「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。 [LA] (N=407)**

「やや不満」「不満」と回答した理由は、「月々納付している医療保険料が高い」が83.8%で最も多く、次いで「医療を受ける時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる」が54.5%、「制度が複雑で分かりづらい」が16.5%、「マイナ保険証を強制的に使用させようとする医療機関等がある」が15.5%であった。

	N	%
月々納付している医療保険料が高い	341	83.8%
医療を受ける時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる	222	54.5%
制度が複雑で分かりづらい	67	16.5%
マイナ保険証を強制的に使用させようとする医療機関等がある	63	15.5%
薬の受け取りに手間がかかる	38	9.3%
医療機関等を受診したい時に受診できない	23	5.7%
医師や看護師の質が悪い	12	2.9%
受付（窓口）の対応が悪い	2	0.5%
その他	11	2.7%
合計	407	100.0%



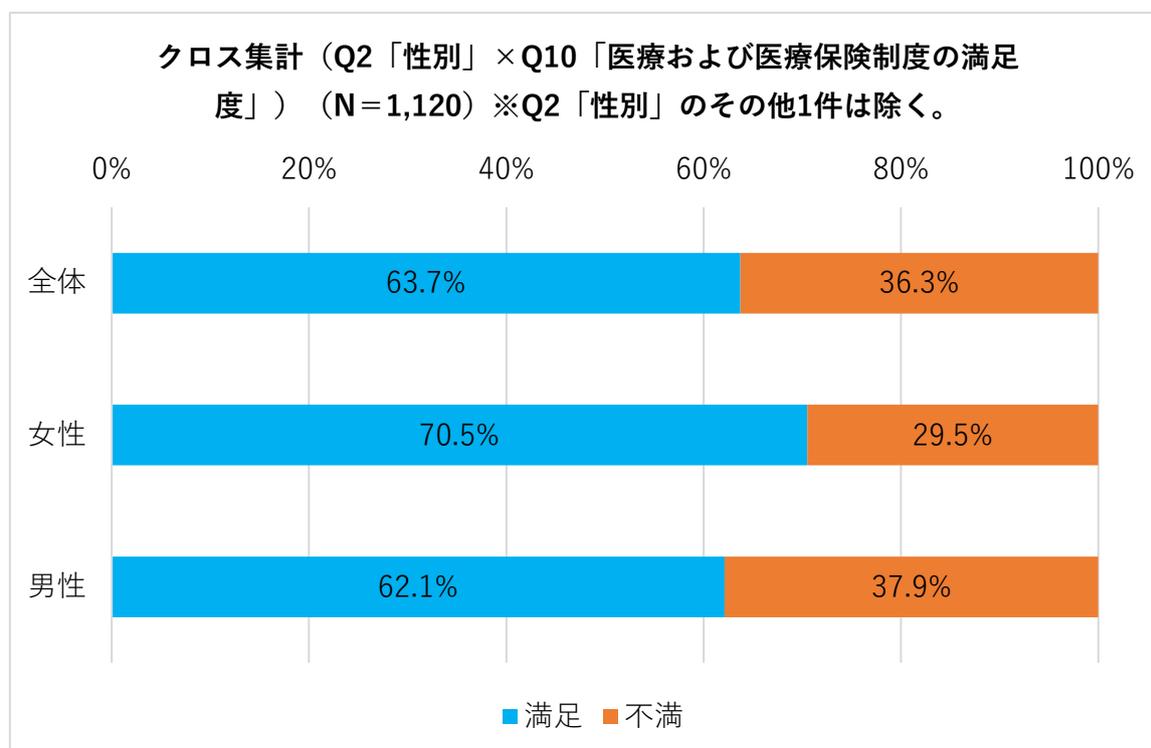
クロス集計（Q2「性別」×Q10「医療および医療保険制度の満足度」）（N=1,120）※Q2「性別」のその他1件は除く。

男女別に医療および医療保険制度の満足度をみると、いずれにおいても「満足」の占める割合が高い。

なお、「満足」の占める割合は、「男性」（62.1%）よりも「女性」（70.5%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1120	714	406
	100.0%	63.7%	36.3%
女性	217	153	64
	100.0%	70.5%	29.5%
男性	903	561	342
	100.0%	62.1%	37.9%

カイ2乗検定：p<.05



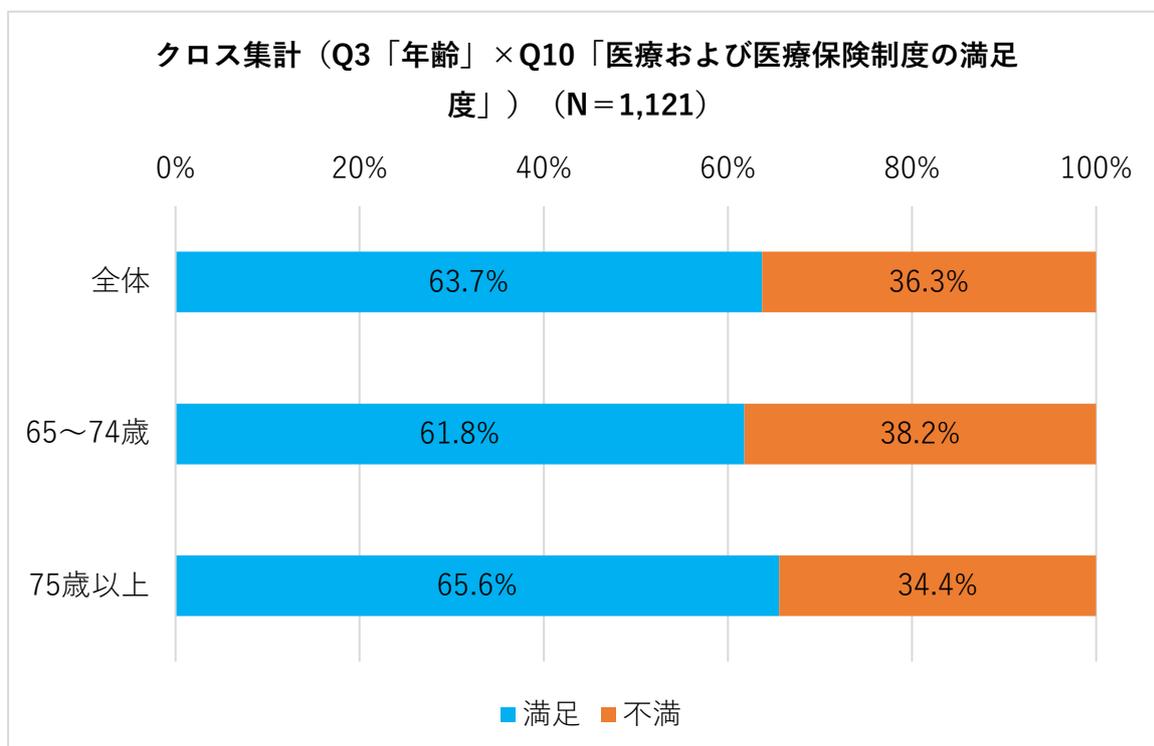
クロス集計（Q3「年齢」×Q10「医療および医療保険制度の満足度」）（N=1,121）

年齢別に医療および医療保険制度の満足度をみると、いずれにおいても「満足」の占める割合が高い。

なお、「満足」の占める割合は「65～74歳」（61.8%）よりも「75歳以上」（65.6%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1121	714	407
	100.0%	63.7%	36.3%
65～74歳	552	341	211
	100.0%	61.8%	38.2%
75歳以上	569	373	196
	100.0%	65.6%	34.4%

カイ2乗検定：p>.05



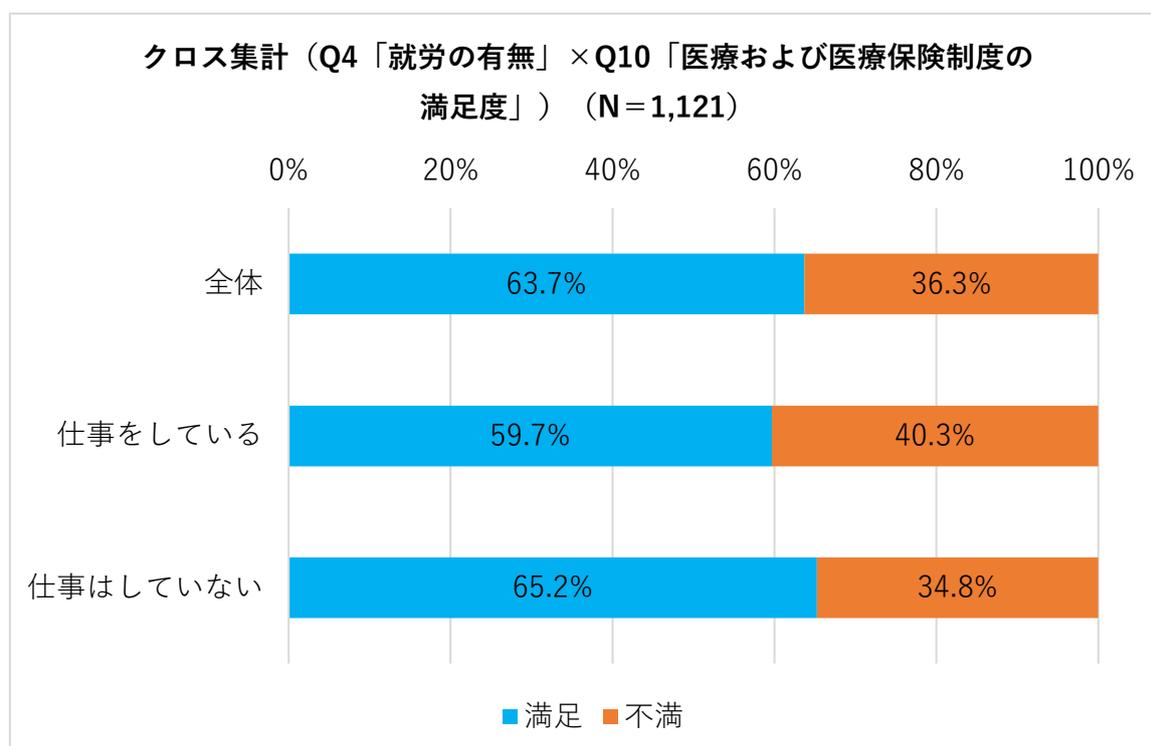
クロス集計（Q4「就労の有無」×Q10「医療および医療保険制度の満足度」）（N=1,121）

就労の有無別に医療および医療保険制度の満足度をみると、いずれにおいても「満足」の占める割合が高い。

なお、「満足」の占める割合は、「仕事をしている」（59.7%）よりも「仕事はしていない」（65.2%）の方が高い。

	全体	満足	不満
全体	1121	714	407
	100.0%	63.7%	36.3%
仕事をしている	310	185	125
	100.0%	59.7%	40.3%
仕事はしていない	811	529	282
	100.0%	65.2%	34.8%

カイ2乗検定：p>.05

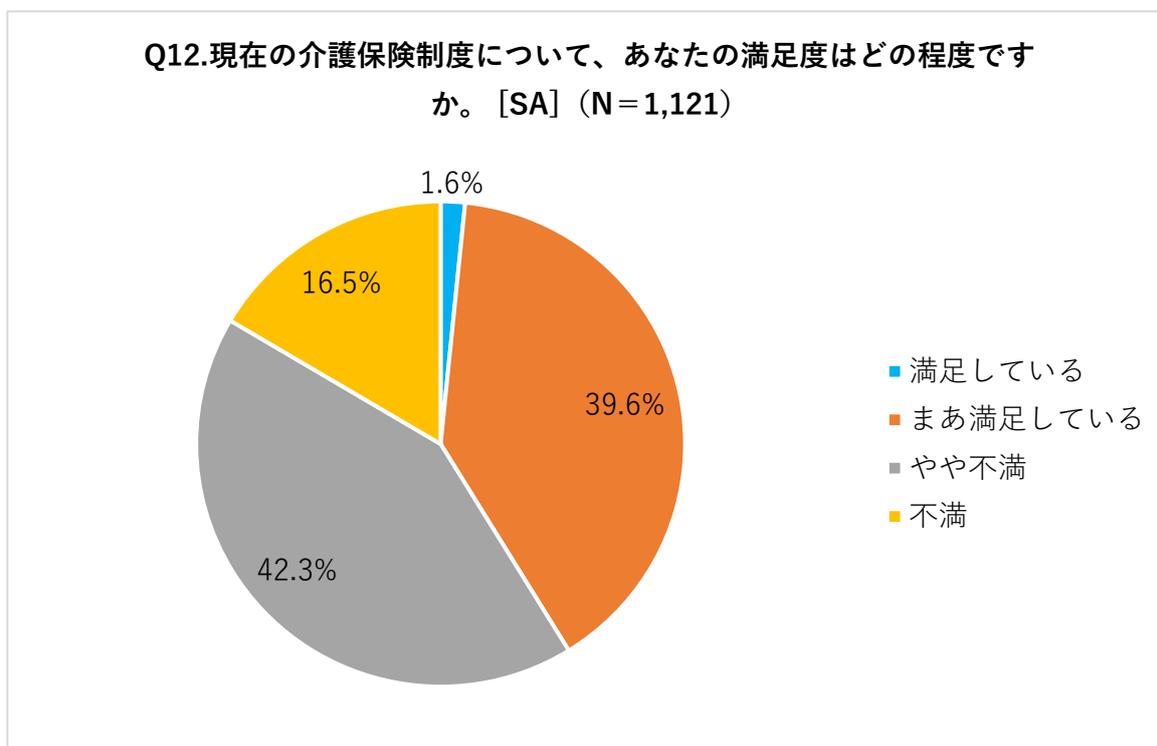


**Q12.現在の介護保険制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。 [SA] (N=1,121)**

介護保険制度の満足度については、「やや不満」が最も多く42.3%であった。

なお、「満足」「不満」の2類型に着目してみると、「満足」は41.2%、「不満」は58.8%となっており、「不満」の占める割合が高い。

	N	%	
満足している	18	1.6%	41.2%
まあ満足している	444	39.6%	
やや不満	474	42.3%	58.8%
不満	185	16.5%	
合計	1121	100.0%	

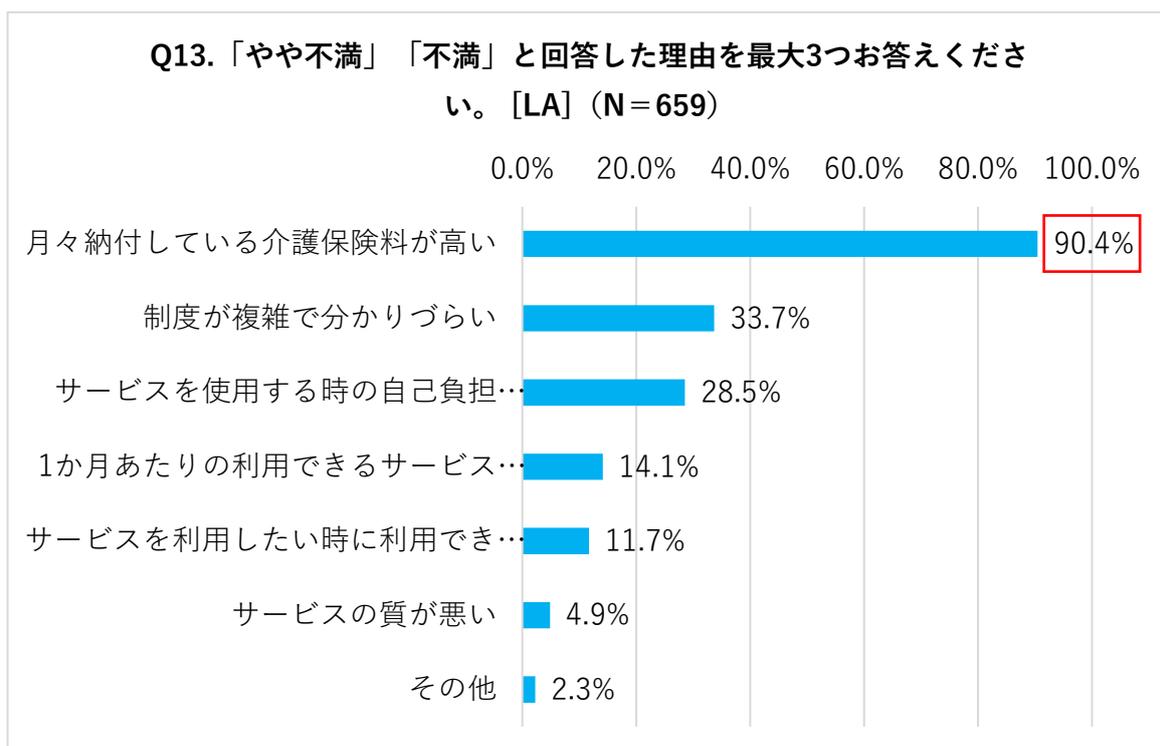


**Q13. 「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。 [LA] (N=659)**

「やや不満」「不満」と回答した理由は、「月々納付している介護保険料が高い」が90.4%で最も多く、次いで「制度が複雑で分かりづらい」が33.7%、「サービスを使用する時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる」が28.5%であった。

※回答者の97.0%が介護保険サービスを「利用していない」ことに留意。

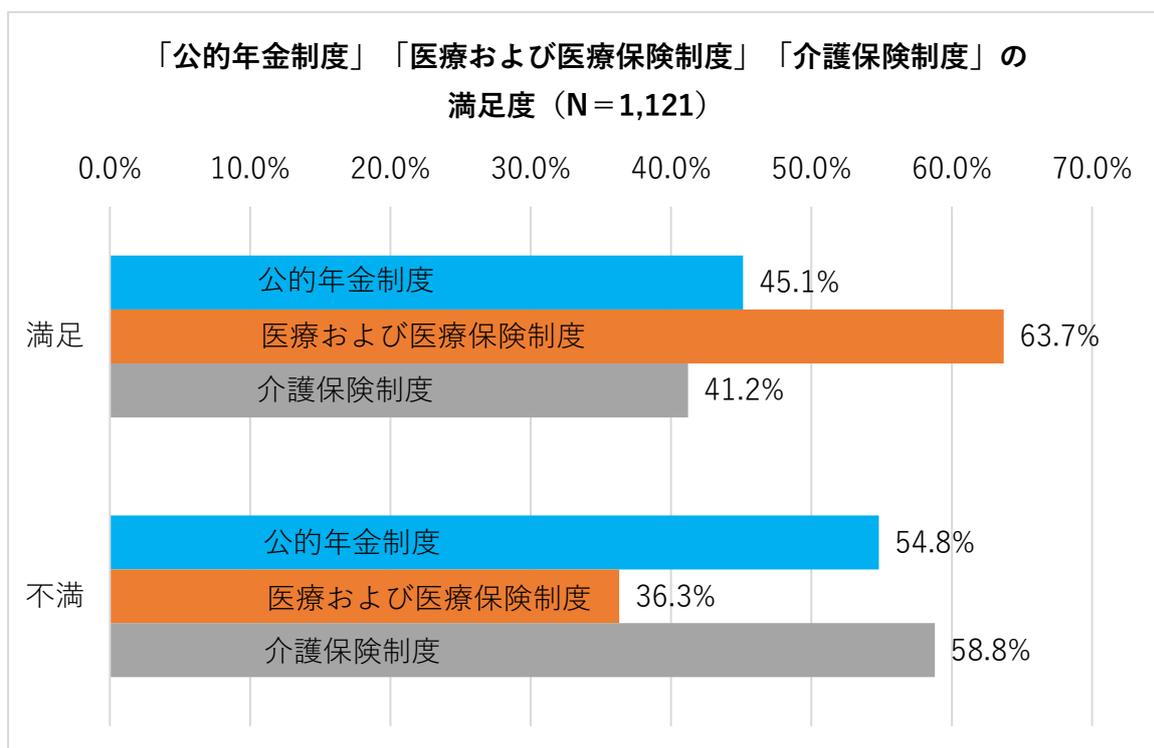
	N	%
月々納付している介護保険料が高い	596	90.4%
制度が複雑で分かりづらい	222	33.7%
サービスを使用する時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる	188	28.5%
1か月あたりの利用できるサービス量（支給限度額）が少ない	93	14.1%
サービスを利用したい時に利用できない	77	11.7%
サービスの質が悪い	32	4.9%
その他	15	2.3%
合計	659	100.0%



「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度（N=1,121）

「公的年金制度」「医療および医療保険制度」「介護保険制度」の満足度については、「医療および医療保険制度」では、「満足」（63.7%）の占める割合が高く、「公的年金制度」「介護保険制度」では、「不満」（54.8%、58.8%）の占める割合が高い。

	公的年金制度		医療および医療保険制度		介護保険制度	
	N	%	N	%	N	%
満足	506	45.1%	714	63.7%	462	41.2%
不満	615	54.8%	407	36.3%	659	58.8%
合計	1121	100.0%	1121	100.0%	1121	100.0%

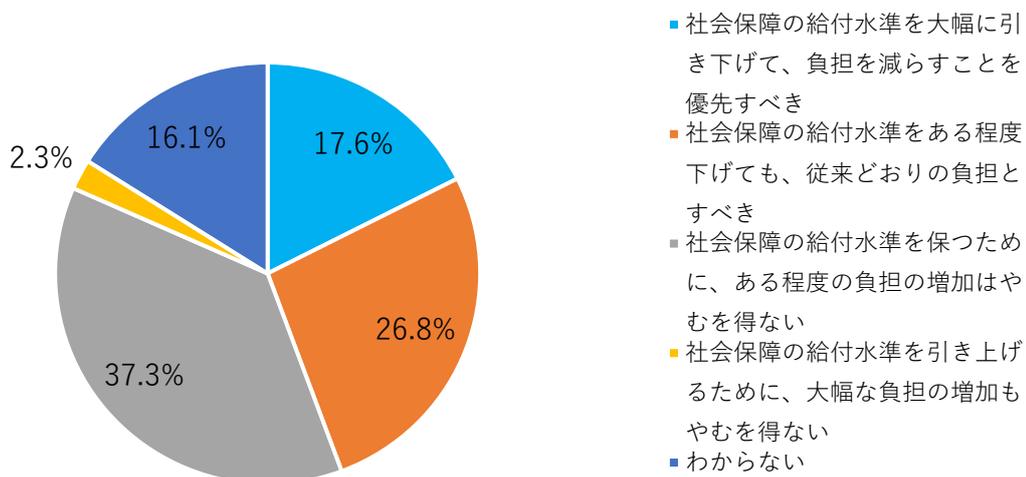


**Q14.社会保障給付費（給付）は、年々増加し、今後も高齢化に伴って増加が見込まれます。また、社会保障給付費の増加に伴い、社会保障に関する国民の負担率（負担）も増加しています。今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランスについてどのように考えますか。[SA]（N=1,121）**

今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランスについては、「社会保障の給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」が37.3%で最も多く、次いで「社会保障の給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき」が26.8%であった。

	N	%
社会保障の給付水準を大幅に引き下げて、負担を減らすことを優先すべき	197	17.6%
社会保障の給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき	300	26.8%
社会保障の給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない	418	37.3%
社会保障の給付水準を引き上げるために、大幅な負担の増加もやむを得ない	26	2.3%
わからない	180	16.1%
合計	1121	100.0%

**Q14.社会保障給付費（給付）は、年々増加し、今後も高齢化に伴って増加が見込まれます。また、社会保障給付費の増加に伴い、社会保障に関する国民の負担率（負担）も増加しています。今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランスについてどのように考えますか。[SA]（N=1,121）**



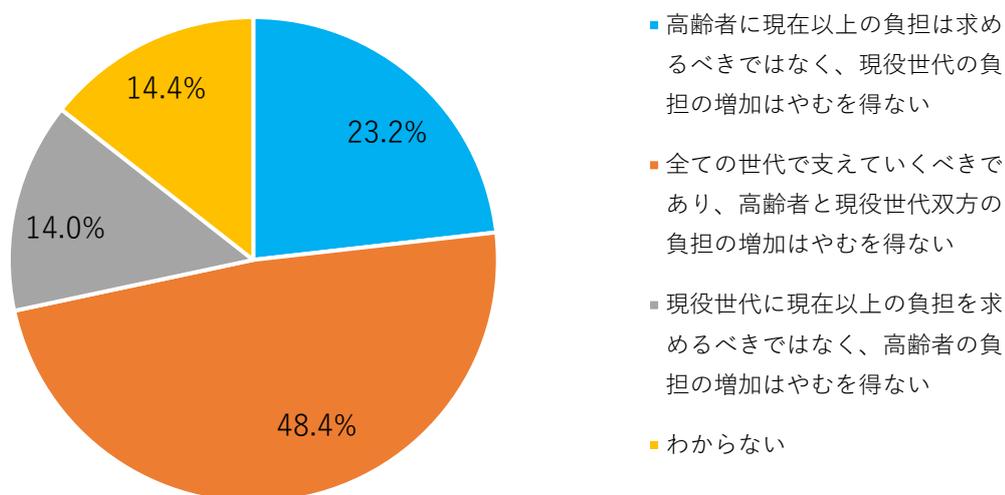
**Q15.社会保障における高齢者と現役世代の負担のあり方について、どのように考えますか。**

**[SA] (N = 1,121)**

高齢者と現役世代の負担のあり方については、「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」が48.4%で最も多く、次いで「高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない」が23.2%であった。

	N	%
高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない	260	23.2%
全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない	543	48.4%
現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない	157	14.0%
わからない	161	14.4%
合計	1121	100.0%

**Q15.社会保障における高齢者と現役世代の負担のあり方について、  
どのように考えますか。 [SA] (N = 1,121)**



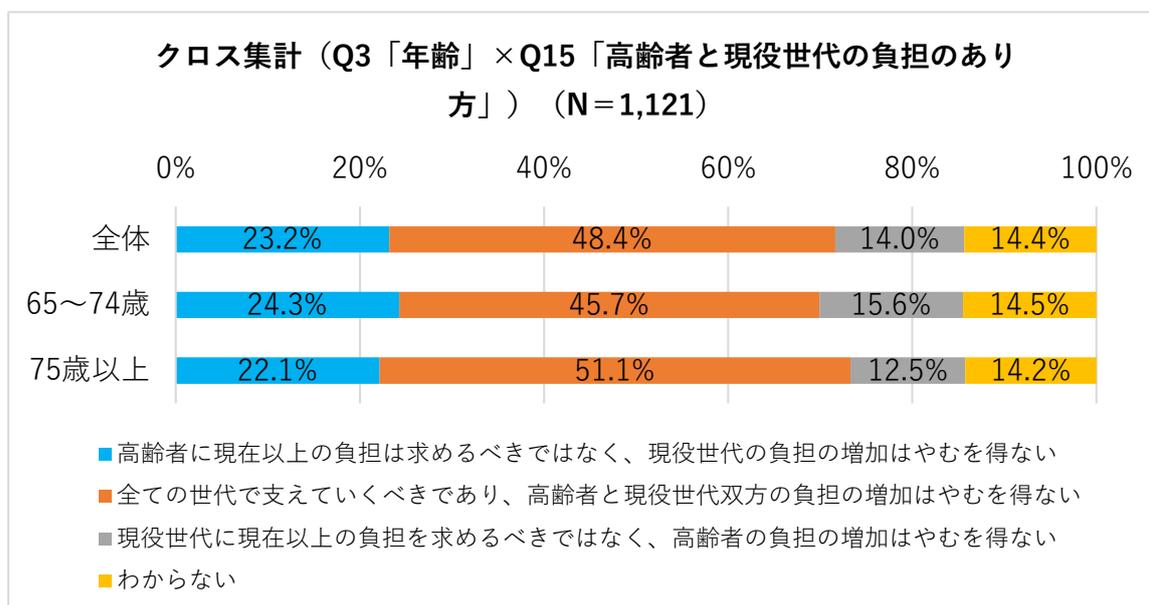
クロス集計（Q3「年齢」×Q15「高齢者と現役世代の負担のあり方」）（N=1,121）

年齢別に高齢者と現役世代の負担のあり方をみると、いずれにおいても「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」の占める割合が高い。

なお、「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」の占める割合は「65～74歳」（45.7%）よりも「75歳以上」（51.1%）の方が高い。

	全体	高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない	全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない	現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない	わからない
全体	1121	260	543	157	161
	100.0%	23.2%	48.4%	14.0%	14.4%
65～74歳	552	134	252	86	80
	100.0%	24.3%	45.7%	15.6%	14.5%
75歳以上	569	126	291	71	81
	100.0%	22.1%	51.1%	12.5%	14.2%

カイ2乗検定：p>.05



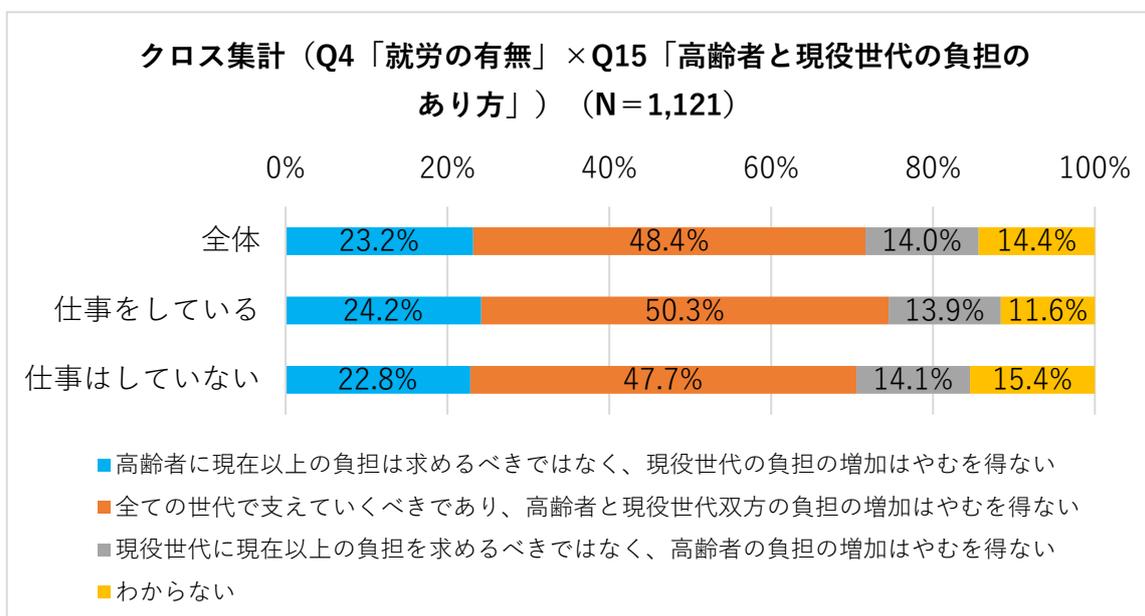
クロス集計（Q4「就労の有無」×Q15「高齢者と現役世代の負担のあり方」）（N=1,121）

就労の有無別に高齢者と現役世代の負担のあり方をみると、いずれにおいても「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」の占める割合が高い。

なお、「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」の占める割合は「仕事はしていない」（47.7%）よりも「仕事をしている」（50.3%）の方が高い。

	全体	高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない	全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない	現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない	わからない
全体	1121	260	543	157	161
	100.0%	23.2%	48.4%	14.0%	14.4%
仕事をしている	310	75	156	43	36
	100.0%	24.2%	50.3%	13.9%	11.6%
仕事はしていない	811	185	387	114	125
	100.0%	22.8%	47.7%	14.1%	15.4%

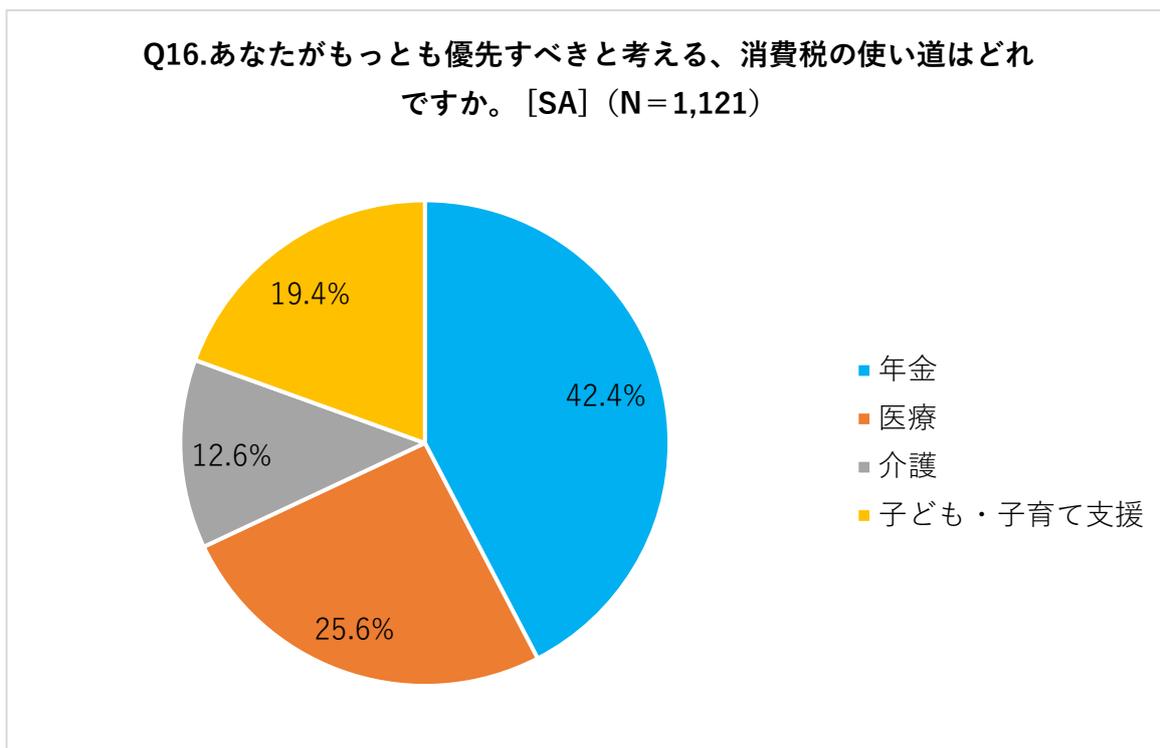
カイ2乗検定：p>.05



**Q16.あなたがもっとも優先すべきと考える、消費税の使い道はどれですか。 [SA] (N=1,121)**

優先すべきと考える、消費税の使い道については、「年金」が42.4%で最も多く、次いで「医療」が25.6%、「子ども・子育て支援」が19.4%であった。

	N	%
年金	475	42.4%
医療	287	25.6%
介護	141	12.6%
子ども・子育て支援	218	19.4%
合計	1121	100.0%



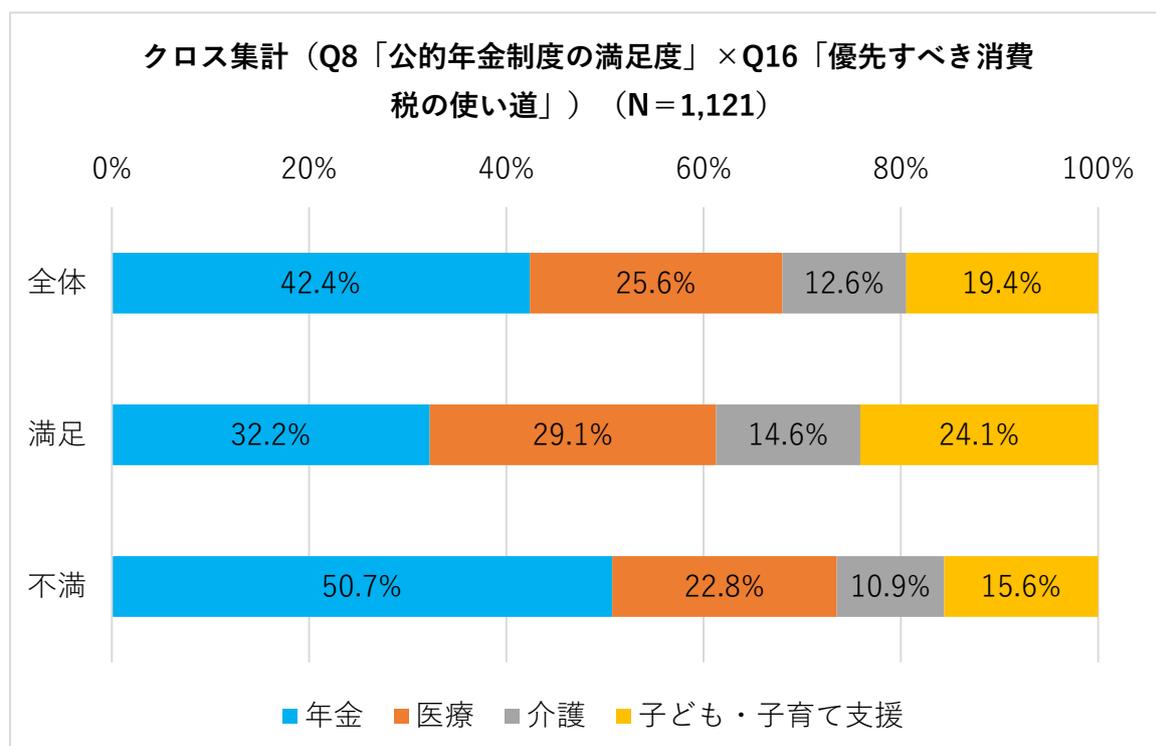
クロス集計（Q8「公的年金制度の満足度」×Q16「優先すべき消費税の使い道」）（N=1,121）

公的年金制度の満足度別に優先すべき消費税の使い道をみると、いずれにおいても「年金」の占める割合が高い。

なお、「年金」の占める割合は「満足」（32.2%）よりも「不満」（50.7%）の方が18.5p高く大きな差がみられた。

	全体	年金	医療	介護	子ども・子育て支援
全体	1121	475	287	141	218
	100.0%	42.4%	25.6%	12.6%	19.4%
満足	506	163	147	74	122
	100.0%	32.2%	29.1%	14.6%	24.1%
不満	615	312	140	67	96
	100.0%	50.7%	22.8%	10.9%	15.6%

カイ2乗検定：p<.05



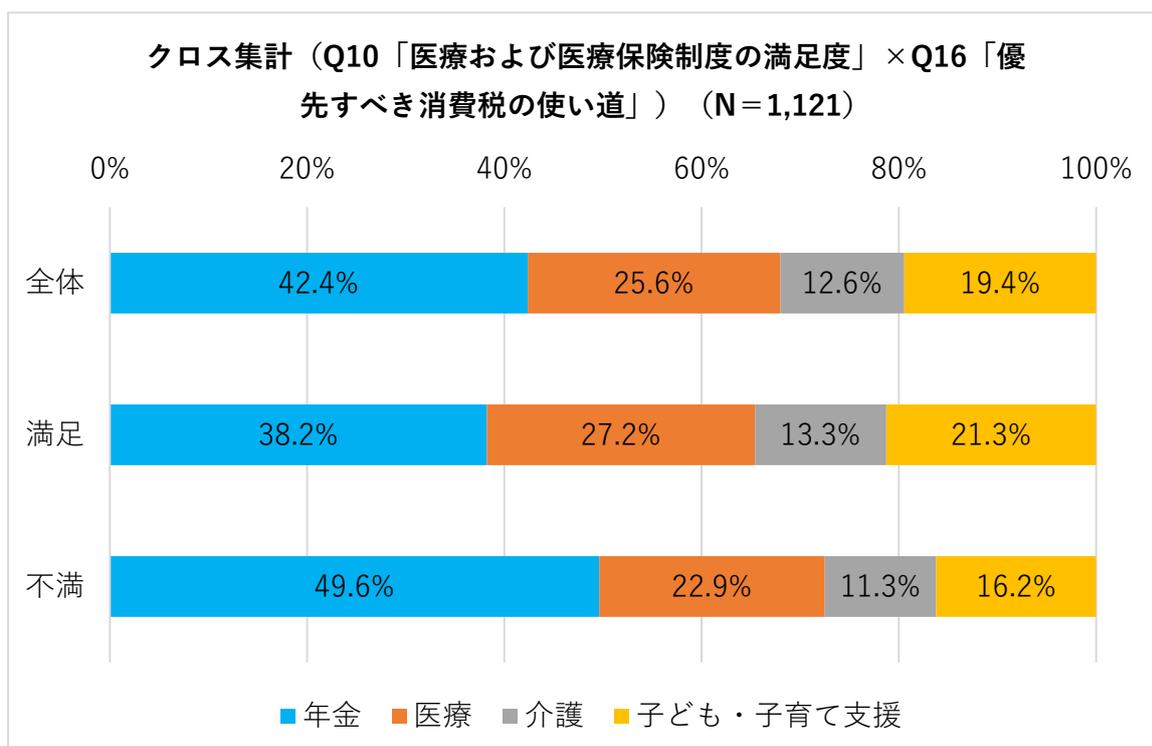
クロス集計（Q10「医療および医療保険制度の満足度」×Q16「優先すべき消費税の使い道」）（N=1,121）

医療および医療保険制度の満足度別に優先すべき消費税の使い道をみると、いずれにおいても「年金」の占める割合が高い。

なお、「年金」の占める割合は「満足」（38.2%）よりも「不満」（49.6%）の方が11.4p高く大きな差がみられた。

	全体	年金	医療	介護	子ども・子育て支援
全体	1121	475	287	141	218
	100.0%	42.4%	25.6%	12.6%	19.4%
満足	714	273	194	95	152
	100.0%	38.2%	27.2%	13.3%	21.3%
不満	407	202	93	46	66
	100.0%	49.6%	22.9%	11.3%	16.2%

カイ2乗検定：p<.05



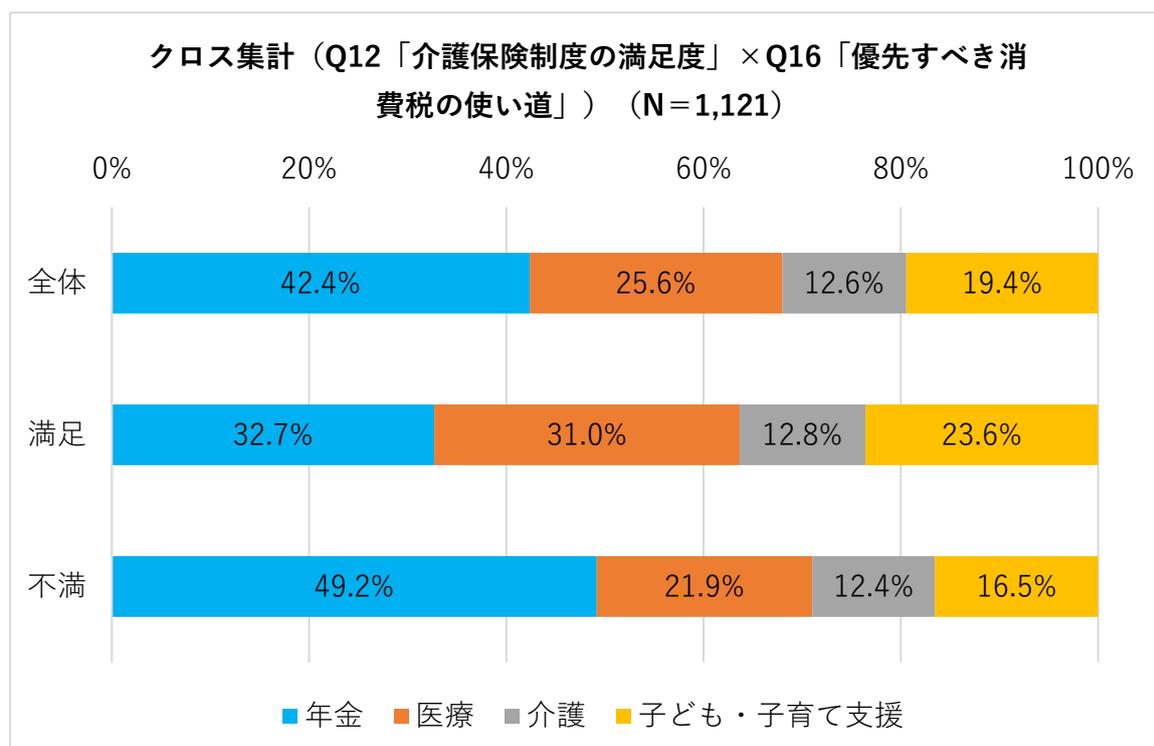
クロス集計（Q12「介護保険制度の満足度」×Q16「優先すべき消費税の使い道」）（N=1,121）

介護保険制度の満足度別に優先すべき消費税の使い道をみると、いずれにおいても「年金」の占める割合が高い。

なお、「年金」の占める割合は「満足」（32.7%）よりも「不満」（49.2%）の方が16.5p高く大きな差がみられた。

	全体	年金	医療	介護	子ども・子育て支援
全体	1121	475	287	141	218
	100.0%	42.4%	25.6%	12.6%	19.4%
満足	462	151	143	59	109
	100.0%	32.7%	31.0%	12.8%	23.6%
不満	659	324	144	82	109
	100.0%	49.2%	21.9%	12.4%	16.5%

カイ2乗検定：p<.05



Q17.令和6年度第6回経済財政諮問会議（令和6年5月23日）において、議員より「高齢者の健康寿命が延びる中で、高齢者の定義を5歳伸ばすことを検討すべき」との意見が出ました。あなたが思う高齢者の年齢は何歳ですか。[FA]（N=1,121）

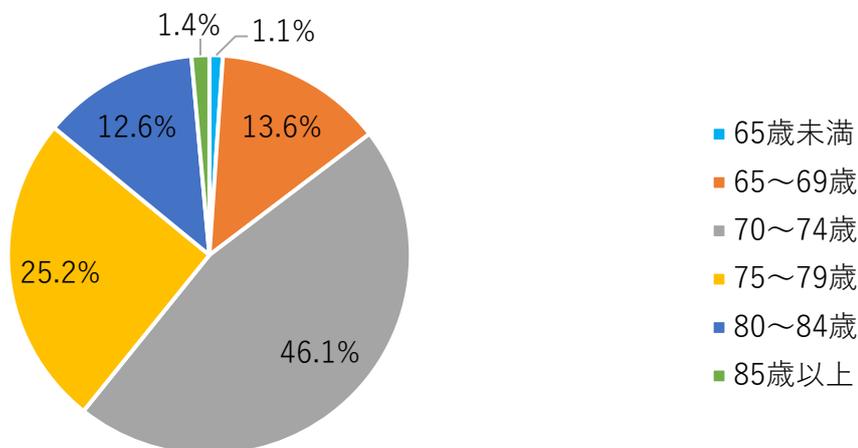
回答者が思う高齢者の年齢については、「70～74歳」が46.1%で最も多く、次いで「75～79歳」が25.2%であった。

なお、回答者が思う高齢者の年齢の平均は72.0歳であった。

	N	%
65歳未満	12	1.1%
65～69歳	152	13.6%
70～74歳	517	46.1%
75～79歳	283	25.2%
80～84歳	141	12.6%
85歳以上	16	1.4%
合計	1121	100.0%

全体	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値
1121	80727	72.0	5.3	3	90

Q17.令和6年度第6回経済財政諮問会議（令和6年5月23日）において、議員より「高齢者の健康寿命が延びる中で、高齢者の定義を5歳伸ばすことを検討すべき」との意見が出ました。あなたが思う高齢者の年齢は何歳ですか。[FA]（N=1,121）



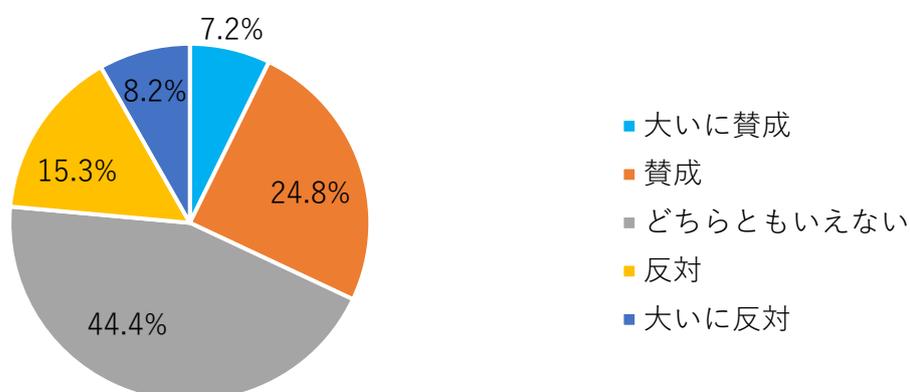
Q18.令和6年度税制改正により、令和6年度分の所得税及び令和6年分の個人住民税において「定額減税」が実施されることとなり、納税者本人と配偶者など扶養家族を対象に、1人あたり4万円（年）の所得税・住民税が差し引かれています。この制度について、あなたはどのように思いますか。[SA]（N=1,121）

定額減税については、「どちらともいえない」が最も多く44.4%であった。

なお、「賛成」「反対」の2類型に着目してみると、「賛成」は32.0%、「反対」は23.5%となっており、「賛成」の占める割合が高い。

	N	%	
大いに賛成	81	7.2%	} 32.0%
賛成	278	24.8%	
どちらともいえない	498	44.4%	
反対	172	15.3%	} 23.5%
大いに反対	92	8.2%	
合計	1121	100.0%	

Q18.令和6年度税制改正により、令和6年度分の所得税及び令和6年分の個人住民税において「定額減税」が実施されることとなり、納税者本人と配偶者など扶養家族を対象に、1人あたり4万円（年）の所得税・住民税が差し引かれています。この制度について、あなたはどのように思いますか。[SA]（N=1,121）



Q19.健康保険証はマイナンバーカード（いわゆる、マイナ保険証）へ移行され、2024年12月2日から現行の健康保険証は発行されなくなります。マイナ保険証を利用することで、医療費を20円節約できる、飲み合わせの悪い薬がないか、効果が同じ薬をもらいすぎているかなどチェックできる等メリットがうたわれていますが、あなたはマイナ保険証に一本化されることについてどう思いますか。[SA] (N=1,121)

マイナ保険証一本化については、「どちらともいえない」が最も多く29.3%であった。  
 なお、「賛成」「反対」の2類型に着目してみると、「賛成」は38.2%、「反対」は32.5%となっており、「賛成」の占める割合が高い。

	N	%
大いに賛成	105	9.4%
賛成	323	28.8%
どちらともいえない	329	29.3%
反対	175	15.6%
大いに反対	189	16.9%
合計	1121	100.0%

Q19.健康保険証はマイナンバーカード（いわゆる、マイナ保険証）へ移行され、2024年12月2日から現行の健康保険証は発行されなくなります。マイナ保険証を利用することで、医療費を20円節約できる、飲み合わせの悪い薬がないか、効果が同じ薬をもらいすぎているかなどチェックできる等メリットがうたわれていますが、あなたはマイナ保険証に一本化されることについてどう思いますか。[SA] (N=1,121)

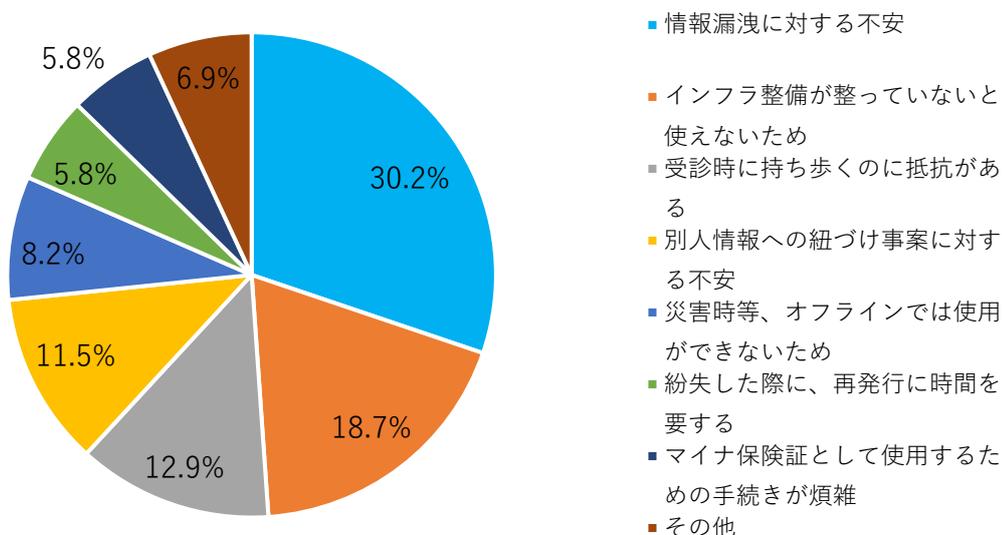


Q20.マイナ保険証一本化に「反対」「大いに反対」する理由として、もっとも近いものを1つお答えください。[SA] (N=364)

「反対」「大いに反対」と回答した理由は、「情報漏洩に対する不安」が30.2%で最も多く、次いで「インフラ整備が整っていないと使えないため」が18.7%、「受診時に持ち歩くのに抵抗がある」が12.9%、「別人情報への紐づけ事案に対する不安」が11.5%であった。

	N	%
情報漏洩に対する不安	110	30.2%
インフラ整備が整っていないと使えないため	68	18.7%
受診時に持ち歩くのに抵抗がある	47	12.9%
別人情報への紐づけ事案に対する不安	42	11.5%
災害時等、オフラインでは使用ができないため	30	8.2%
紛失した際に、再発行に時間を要する	21	5.8%
マイナ保険証として使用するための手続きが煩雑	21	5.8%
その他	25	6.9%
合計	364	100.0%

Q20.マイナ保険証一本化に「反対」「大いに反対」する理由として、もっとも近いものを1つお答えください。[SA] (N=364)



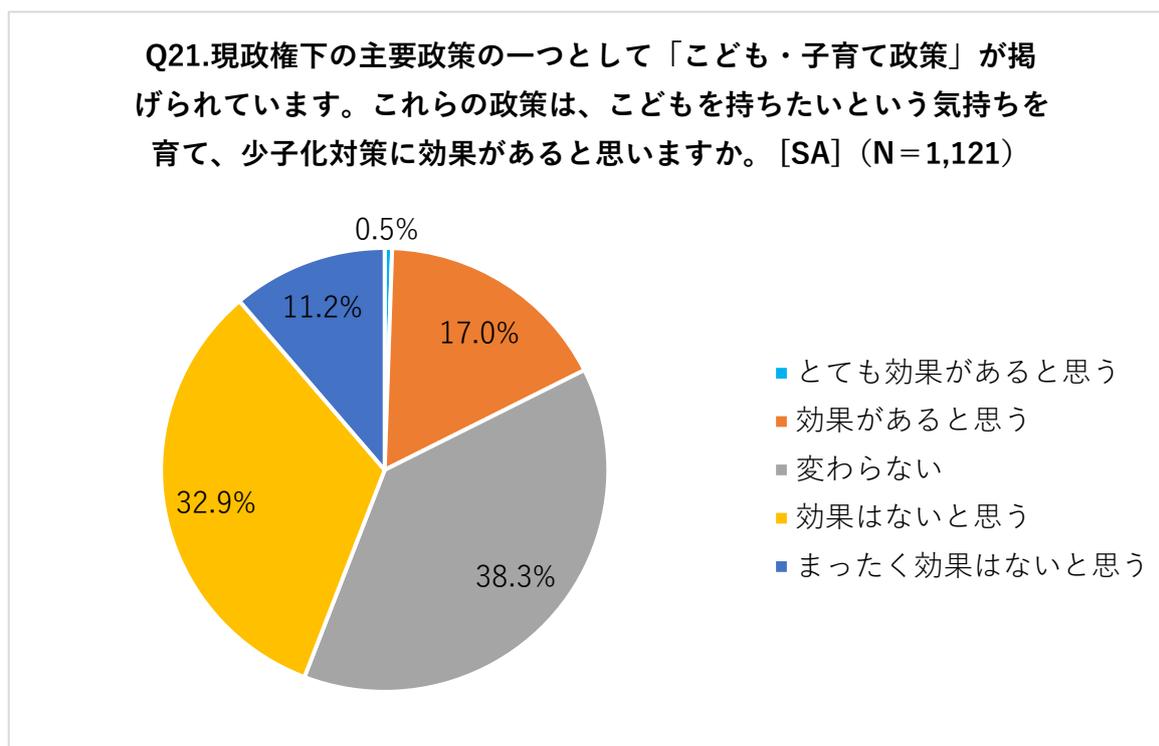
Q21.現政権下の主要政策の一つとして「こども・子育て政策」が掲げられています。これらの政策は、こどもを持ちたいという気持ちを育て、少子化対策に効果があると思いますか。

[SA] (N=1,121)

「こども・子育て政策」が少子化対策に効果があるかについては、「変わらない」が38.3%で最も多い。

なお、「効果があると思う」「効果はないと思う」の2類型に着目してみると、「効果があると思う」は17.5%、「効果はないと思う」は44.1%となっており、「効果がないと思う」の占める割合が高い。

	N	%
とても効果があると思う	6	0.5%
効果があると思う	191	17.0%
変わらない	429	38.3%
効果はないと思う	369	32.9%
まったく効果はないと思う	126	11.2%
合計	1121	100.0%

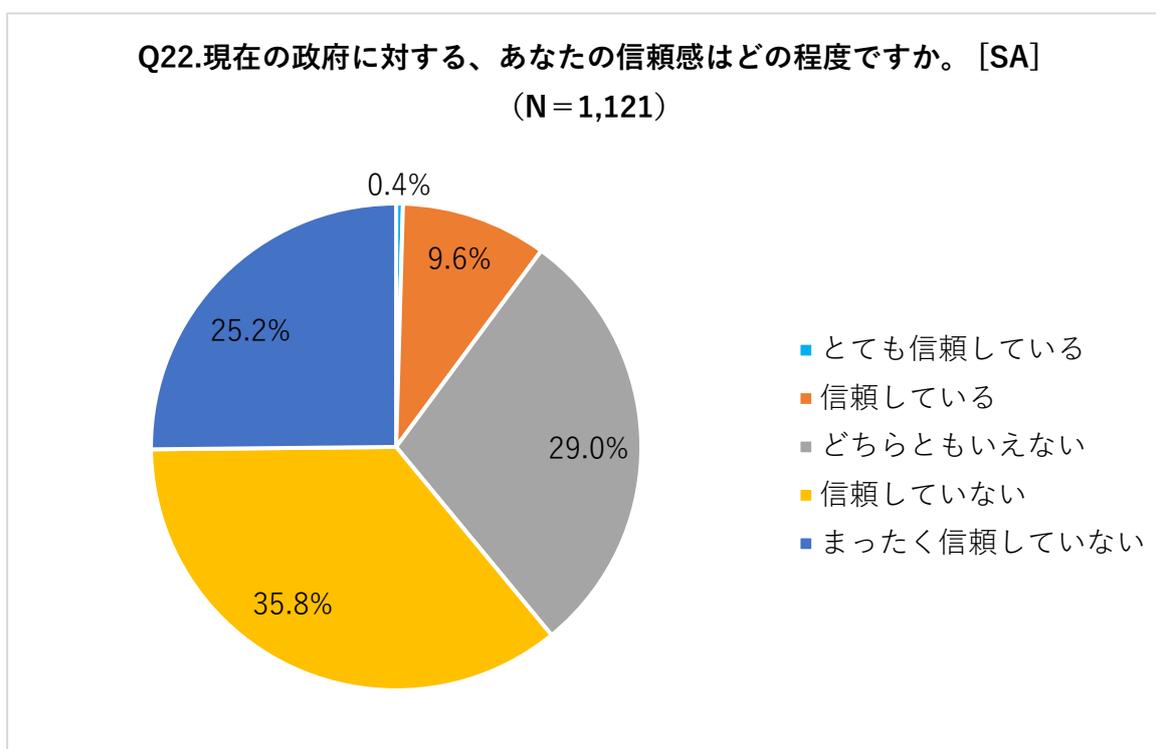


**Q22.現在の政府に対する、あなたの信頼感はどの程度ですか。 [SA] (N=1,121)**

現在の政府に対する、信頼感については、「信頼していない」が35.8%で最も多い。

なお、「信頼している」「信頼していない」の2類型に着目してみると、「信頼している」は10.0%、「信頼していない」は61.0%となっており、「信頼していない」の占める割合が高い。

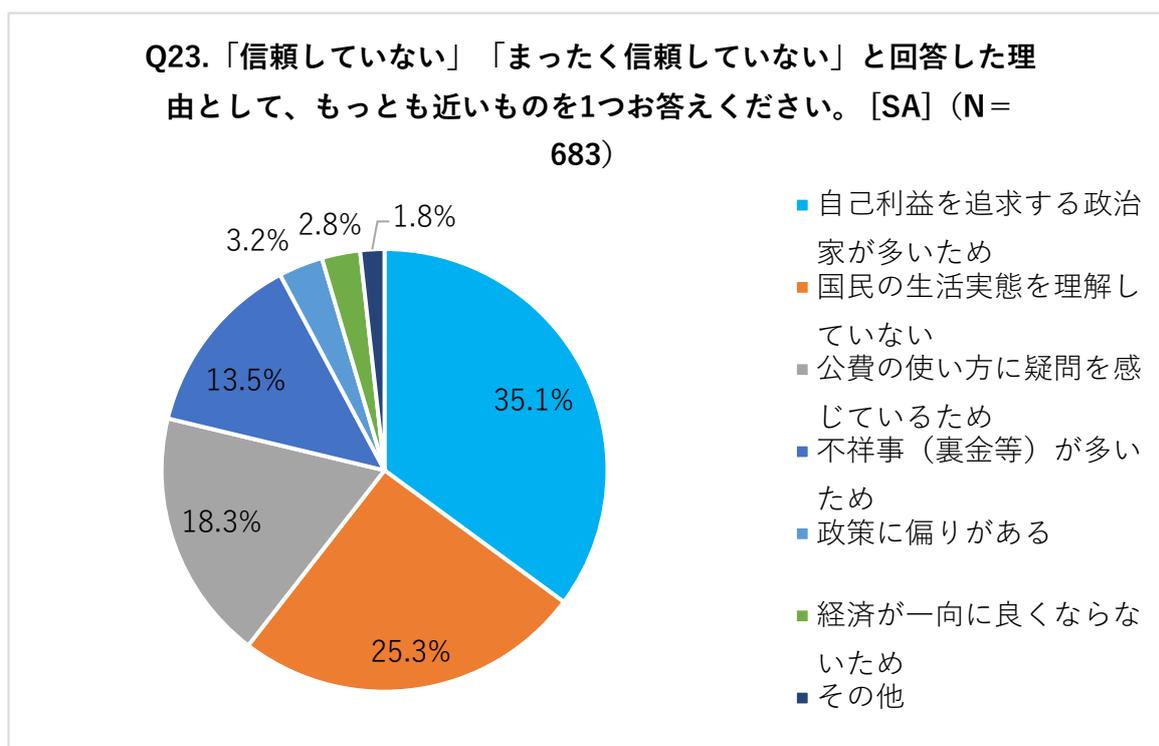
	N	%	
とても信頼している	5	0.4%	} 10.0%
信頼している	108	9.6%	
どちらともいえない	325	29.0%	
信頼していない	401	35.8%	} 61.0%
まったく信頼していない	282	25.2%	
合計	1121	100.0%	



Q23. 「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由として、もっとも近いものを1つお答えください。[SA] (N=683)

「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由については、「自己利益を追求する政治家が多いため」が35.1%で最も多く、次いで「国民の生活実態を理解していない」が25.3%、「公費の使い方に疑問を感じているため」が18.3%、「不祥事（裏金等）が多いため」が13.5%であった。

	N	%
自己利益を追求する政治家が多いため	240	35.1%
国民の生活実態を理解していない	173	25.3%
公費の使い方に疑問を感じているため	125	18.3%
不祥事（裏金等）が多いため	92	13.5%
政策に偏りがある	22	3.2%
経済が一向に良くならないため	19	2.8%
その他	12	1.8%
合計	683	100.0%

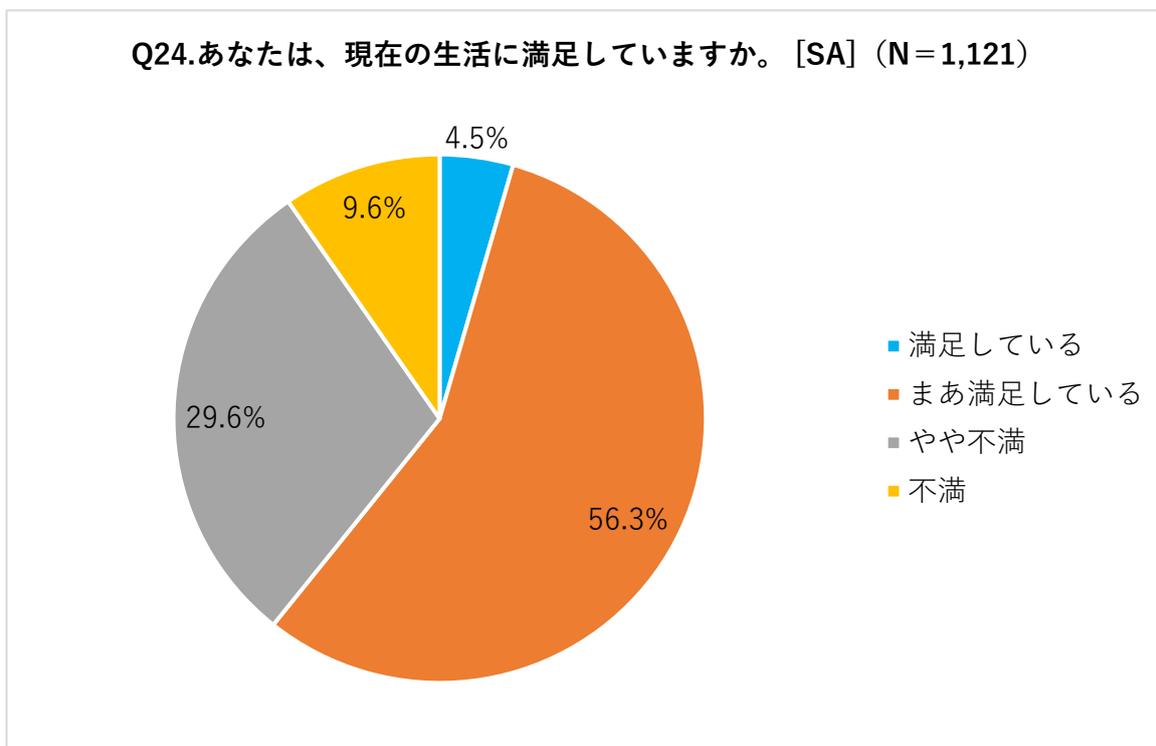


**Q24.あなたは、現在の生活に満足していますか。 [SA] (N=1,121)**

現在の生活に対する満足度については、「まあ満足している」が56.3%で最も多い。

なお、「満足」「不満」の2類型に着目してみると、「満足」は60.8%、「不満」は39.2%となっており、「満足」の占める割合が高い。

	N	%	
満足している	50	4.5%	60.8%
まあ満足している	631	56.3%	
やや不満	332	29.6%	39.2%
不満	108	9.6%	
合計	1121	100.0%	



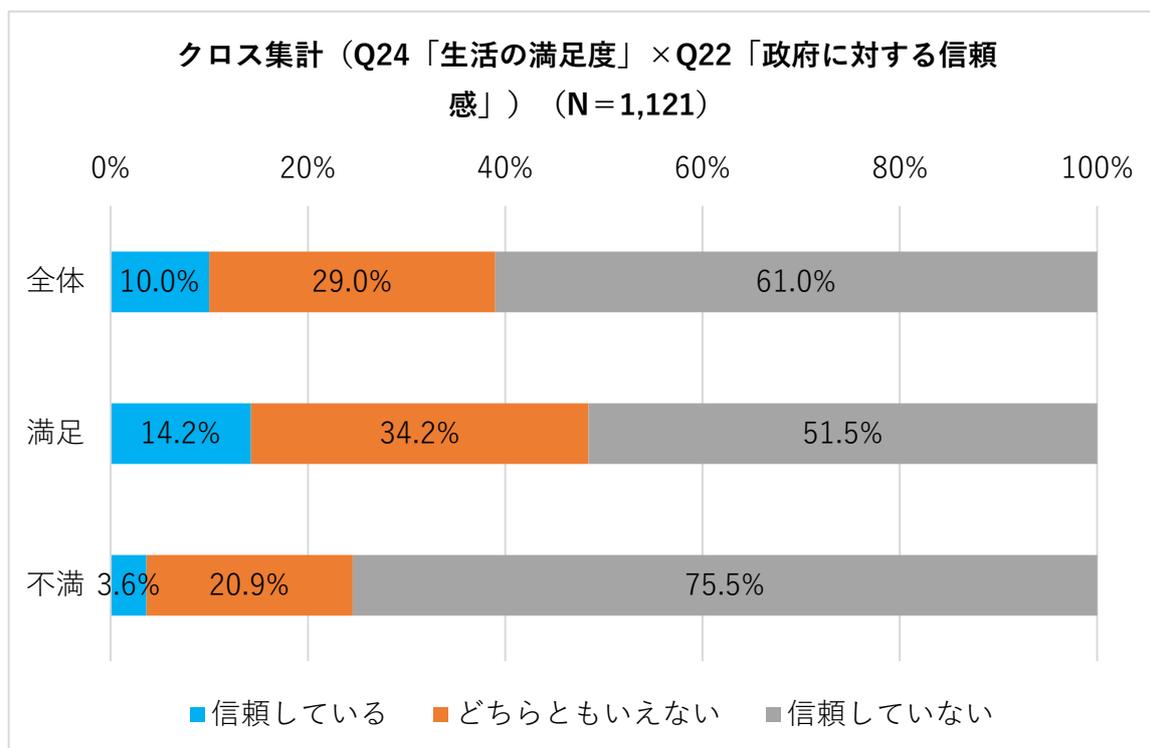
クロス集計（Q24「生活の満足度」×Q22「政府に対する信頼感」）（N=1,121）

生活の満足度別に政府に対する信頼感をみると、いずれにおいても「信頼していない」の占める割合が高い。

なお、「信頼していない」の占める割合は、「満足」（51.5%）よりも「不満」（75.5%）の方が24.0p高く大きな差がみられた。

	全体	信頼している	どちらともいえない	信頼していない
全体	1121	113	325	683
	100.0%	10.0%	29.0%	61.0%
満足	681	97	233	351
	100.0%	14.2%	34.2%	<u>51.5%</u>
不満	440	16	92	332
	100.0%	3.6%	20.9%	<u>75.5%</u>

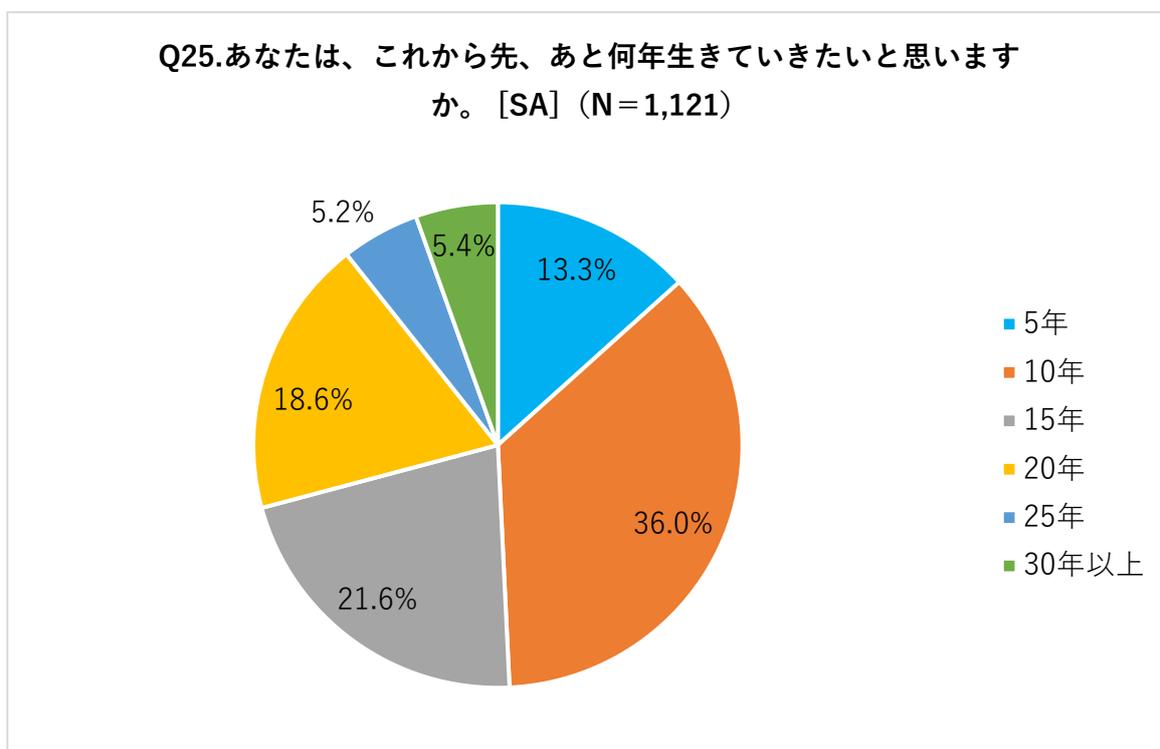
カイ2乗検定：p<.05



**Q25.あなたは、これから先、あと何年生きていきたいと思いますか。 [SA] (N=1,121)**

これから先、あと何年生きていきたいかについては、「10年」が36.0%で最も多く、次いで「15年」が21.6%、「20年」が18.6%であった。

	N	%
5年	149	13.3%
10年	403	36.0%
15年	242	21.6%
20年	208	18.6%
25年	58	5.2%
30年以上	61	5.4%
合計	1121	100.0%

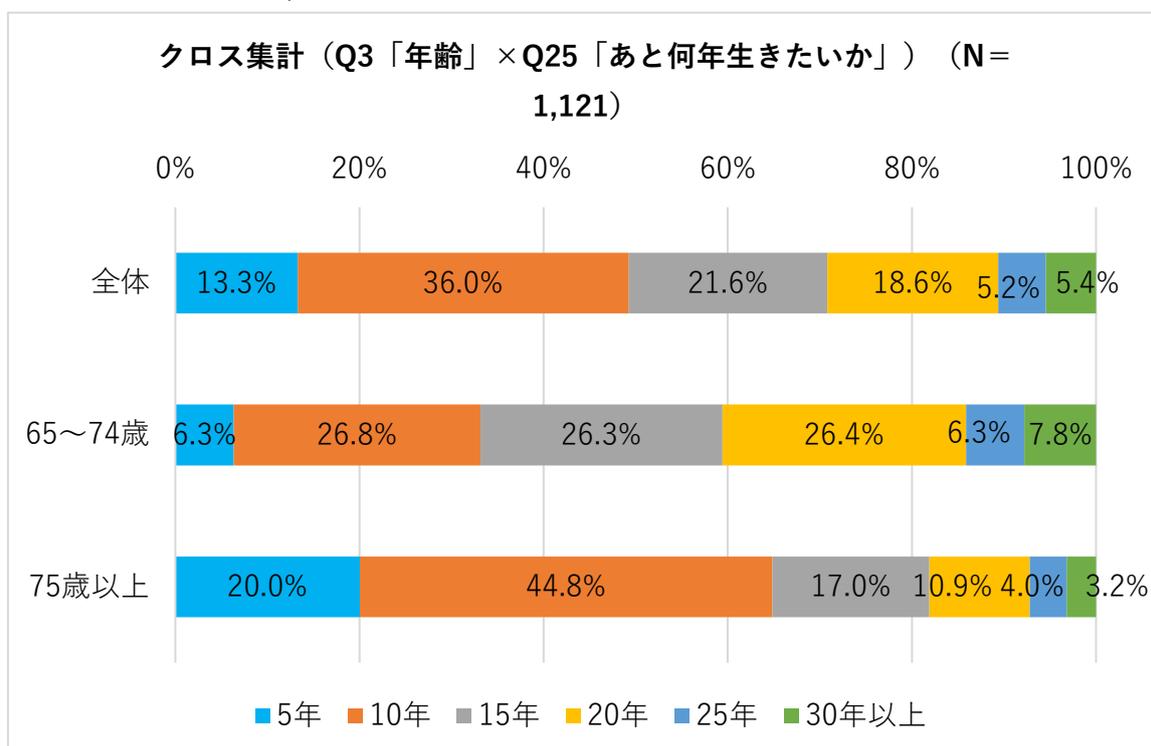


クロス集計（Q3「年齢」×Q25「あと何年生きたいか」）（N=1,121）

年齢別にあと何年生きたいかをみると、いずれにおいても「10年」の占める割合が高い。なお、「10年」の占める割合は「65～74歳」（26.8%）よりも「75歳以上」（44.8%）の方が18.0p高く大きな差がみられた。

	全体	5年	10年	15年	20年	25年	30年以上
全体	1121	149	403	242	208	58	61
	100.0%	13.3%	36.0%	21.6%	18.6%	5.2%	5.4%
65～74歳	552	35	148	145	146	35	43
	100.0%	6.3%	26.8%	26.3%	26.4%	6.3%	7.8%
75歳以上	569	114	255	97	62	23	18
	100.0%	20.0%	44.8%	17.0%	10.9%	4.0%	3.2%

カイ2乗検定：p<.05

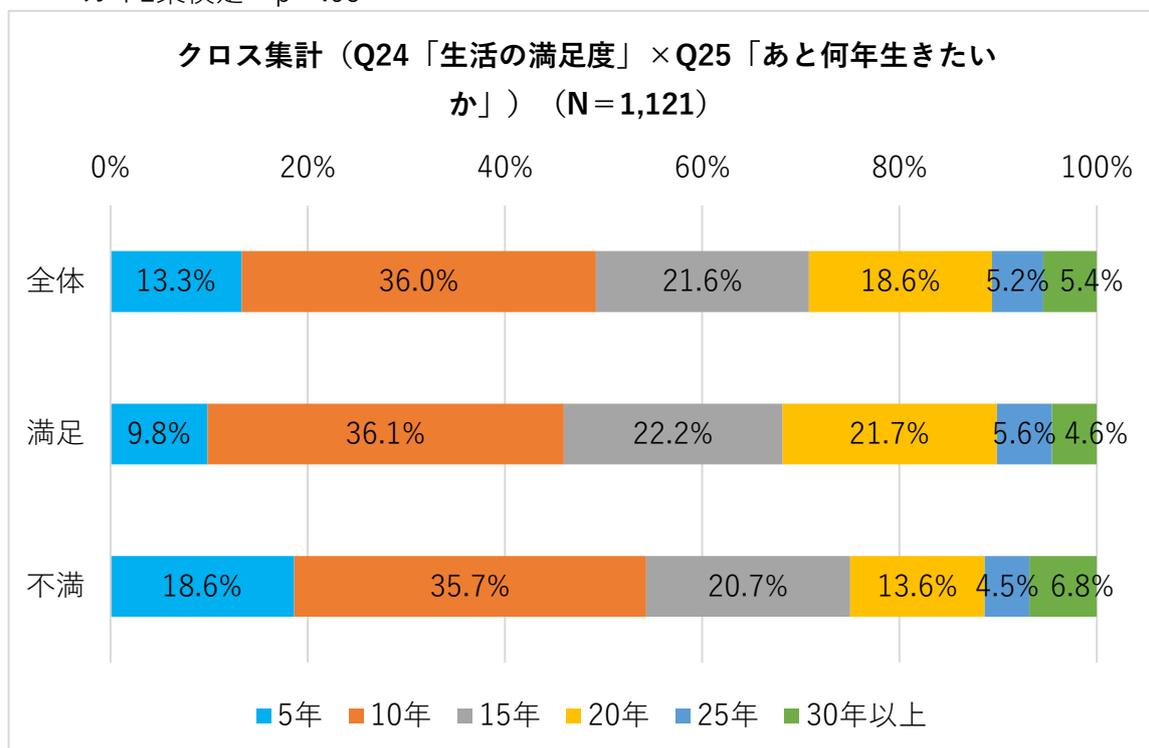


クロス集計（Q24「生活の満足度」×Q25「あと何年生きたいか」）（N=1,121）

生活の満足度別にあと何年生きたいかをみると、いずれにおいても「10年」（36.1%、35.7%）の占める割合が高い。

	全体	5年	10年	15年	20年	25年	30年以上
全体	1121	149	403	242	208	58	61
	100.0%	13.3%	36.0%	21.6%	18.6%	5.2%	5.4%
満足	681	67	246	151	148	38	31
	100.0%	9.8%	36.1%	22.2%	21.7%	5.6%	4.6%
不満	440	82	157	91	60	20	30
	100.0%	18.6%	35.7%	20.7%	13.6%	4.5%	6.8%

カイ2乗検定：p<.05

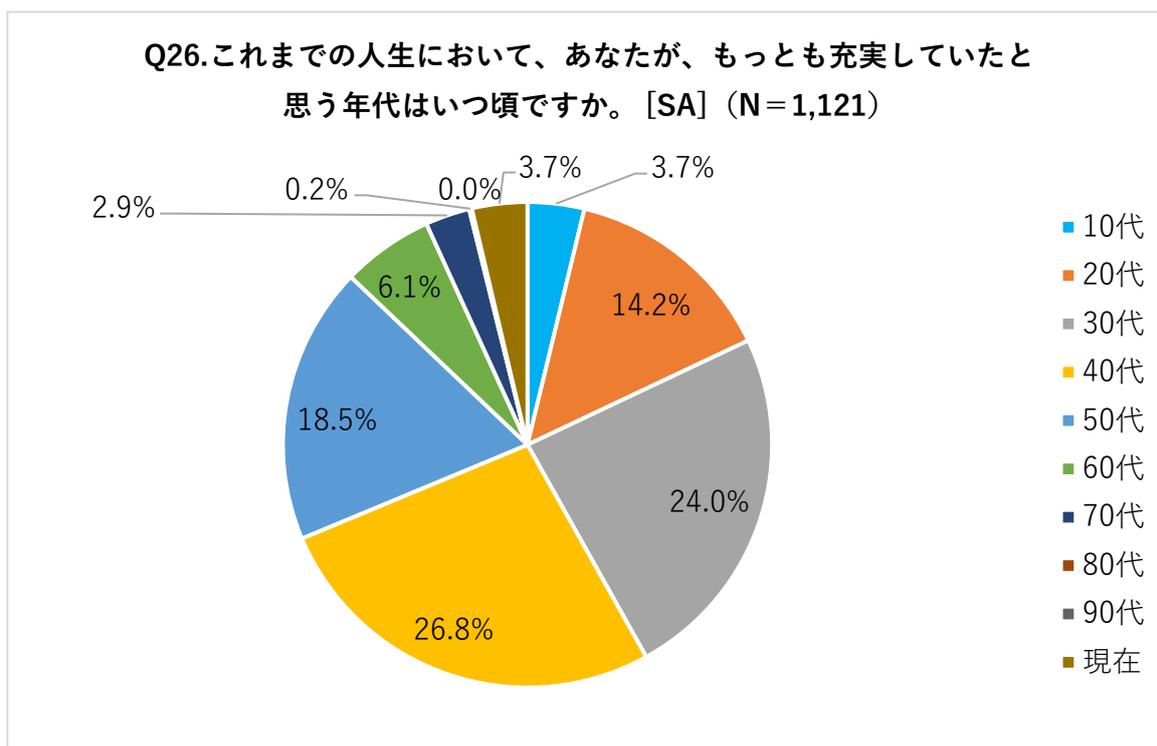


Q26.これまでの人生において、あなたが、もっとも充実していたと思う年代はいつ頃ですか。[SA] (N=1,121)

もっとも充実していたと思う年代については、「40代」が26.8%で最も多く、次いで「30代」が24.0%、「50代」が18.5%であった。

なお、「30～40代」で約5割（50.8%）を占める。

	N	%
10代	42	3.7%
20代	159	14.2%
30代	269	24.0%
40代	300	26.8%
50代	207	18.5%
60代	68	6.1%
70代	33	2.9%
80代	2	0.2%
90代	0	0.0%
現在	41	3.7%
合計	1121	100.0%



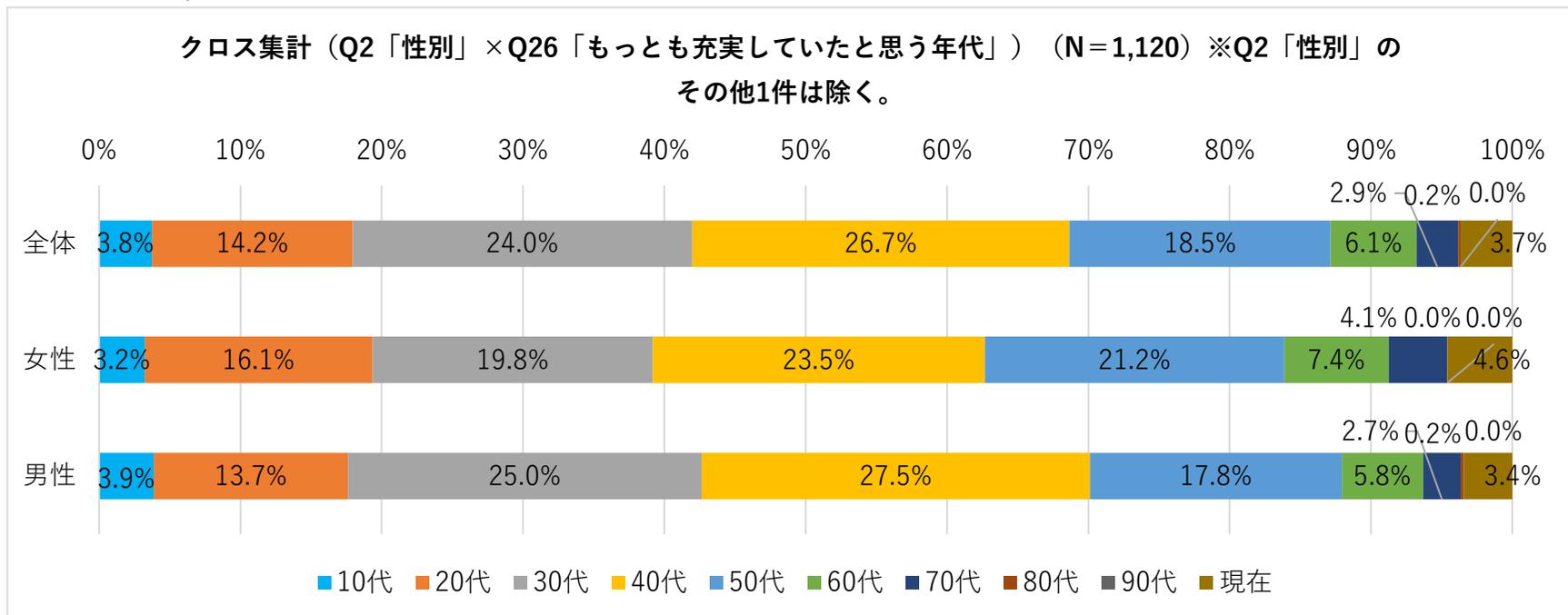
クロス集計（Q2「性別」×Q26「もっとも充実していたと思う年代」）（N=1,120）※Q2「性別」のその他1件は除く。

男女別にもっとも充実していたと思う年代をみると、いずれにおいても「40代」の占める割合が高い。

なお、それぞれの上位3つをみると、「女性」では「40代」（23.5%）、「50代」（21.2%）、「30代」（19.8%）、「男性」では「40代」（27.5%）、「30代」（25.0%）、「50代」（17.8%）で違いがみられた。

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	現在
全体	1120	42	159	269	299	207	68	33	2	0	41
	100.0%	3.8%	14.2%	24.0%	26.7%	18.5%	6.1%	2.9%	0.2%	0.0%	3.7%
女性	217	7	35	43	51	46	16	9	0	0	10
	100.0%	3.2%	16.1%	19.8%	<u>23.5%</u>	21.2%	7.4%	4.1%	0.0%	0.0%	4.6%
男性	903	35	124	226	248	161	52	24	2	0	31
	100.0%	3.9%	13.7%	25.0%	<u>27.5%</u>	17.8%	5.8%	2.7%	0.2%	0.0%	3.4%

カイ2乗検定：p>.05



### (3) 調査票

Q	設問内容	回答形式	選択肢
1	この調査の説明を読んだ上で、調査に協力しますか。なお、本調査は無記名であるため、調査回答後に申し出られた場合には個人の特定は不可能であり、同意撤回はできません。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	はい  いいえ

※あなたに関する情報をご回答ください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢
2	あなたの性別についてお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	女性 男性 その他
3	あなたの年齢についてお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	65～74歳 75～84歳 85～94歳 95歳以上
4	あなたは、現在、仕事をしていますか。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	仕事をしている 仕事はしていない
5	あなたは、現在、公的の介護保険サービスを利用していますか。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	利用している 利用していない
6	あなたの世帯構成（同居している方）についてお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	単身 配偶者（パートナーも含む）と同居 独身の子と同居 子の夫婦と同居 親（義理の親や両親含む）と同居 その他（ ）

7	あなたの居住形態についてお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	持家（一戸建て） 持家（分譲マンション等の集合住宅） 賃貸住宅（一戸建て） 賃貸住宅（民営のアパート、マンション） 賃貸住宅（公営・公社・UR等の集合住宅） 高齢者向け住宅 その他（ ）
---	---	-----	---

※社会保障（年金・医療・介護）について、あなたが感じていることをご回答ください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢
8	現在の公的年金制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	満足している まあ満足している やや不満 不満
9	「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。 【必須/該当するものを最大3つ選択】	L A	納付した保険料の割に、もらえる金額が少ない 公的年金だけでは生活が厳しい 公的年金の支給は毎月としてほしい 制度に不信感を持っている 公的年金の請求手続きが煩雑すぎる 制度が複雑で分かりづらい 公的年金の受給要件を得るまでの期間がながい その他（ ）

<p><b>10</b> 現在の医療および医療保険制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>満足している</p> <p>まあ満足している</p> <p>やや不満</p> <p>不満</p>
<p><b>11</b> 「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。</p> <p>【必須/該当するものを最大3つ選択】</p>	L A	<p>月々納付している医療保険料が高い</p> <p>医療を受ける時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる</p> <p>医療機関等を受診したい時に受診できない</p> <p>薬の受け取りに手間がかかる</p> <p>制度が複雑で分かりづらい</p> <p>医師や看護師の質が悪い</p> <p>マイナ保険証を強制的に使用させようとする医療機関等がある</p> <p>受付（窓口）の対応が悪い</p> <p>その他（ ）</p>
<p><b>12</b> 現在の介護保険制度について、あなたの満足度はどの程度ですか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>満足している</p> <p>まあ満足している</p> <p>やや不満</p> <p>不満</p>
<p><b>13</b> 「やや不満」「不満」と回答した理由を最大3つお答えください。</p> <p>【必須/該当するものを最大3つ選択】</p>	L A	<p>月々納付している介護保険料が高い</p> <p>サービスを使用する時の自己負担（1～3割）割合が大きすぎる</p> <p>サービスを利用したい時に利用できない</p> <p>1か月あたりの利用できるサービス量（支給限度額）が少ない</p> <p>制度が複雑で分かりづらい</p> <p>サービスの質が悪い</p> <p>その他（ ）</p>

<p><b>14</b> 社会保障給付費（給付）は、年々増加し、今後も高齢化に伴って増加が見込まれます。また、社会保障給付費の増加に伴い、社会保障に関する国民の負担率（負担）も増加しています。</p> <p>今後の日本の社会保障の「給付」と「負担」のバランスについてどのように考えますか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>社会保障の給付水準を大幅に引き下げて、負担を減らすことを優先すべき</p> <p>社会保障の給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき</p> <p>社会保障の給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない</p> <p>社会保障の給付水準を引き上げるために、大幅な負担の増加もやむを得ない</p> <p>わからない</p>
<p><b>15</b> 社会保障における高齢者と現役世代の負担のあり方について、どのように考えますか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない</p> <p>全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない</p> <p>現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない</p> <p>わからない</p>
<p><b>16</b> あなたがもっとも優先すべきと考える、消費税の使い道はどれですか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>年金</p> <p>医療</p> <p>介護</p> <p>子ども・子育て支援</p>

17 令和6年度第6回経済財政諮問会議（令和6年5月23日）において、議員より「高齢者の健康寿命が延びる中で、高齢者の定義を5歳伸ばすことを検討すべき」との意見が出ました。

F A

あなたが思う高齢者の年齢は何歳ですか。

【必須/直接入力】

※現政権下の政策について、あなたが感じていることをご回答ください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢
18	令和6年度税制改正により、令和6年度分の所得税及び令和6年分の個人住民税において「定額減税」が実施されることとなり、納税者本人と配偶者など扶養家族を対象に、1人あたり4万円（年）の所得税・住民税が差し引かれています。この制度について、あなたはどのように思いますか。	S A	大いに賛成 賛成 どちらともいえない 反対 大いに反対

【必須/該当するものをひとつ選択】

※1：厚生労働大臣等から公的年金等を受給している方は、公的年金等からの源泉徴収においても定額減税をうけることになります。

※2：定額減税をうけることができる方は次のいずれにも該当する方です。「令和6年分の所得税の納税者である方（居住者に限る）」、「令和6年分の所得税に係る合計所得金額が1,805万円以下である方」

19 健康保険証はマイナンバーカード（いわゆる、マイナ保険証）へ移行され、2024年12月2日から現行の健康保険証は発行されなくなります。マイナ保険証を利用することで、医療費を20円節約できる、飲み合わせの悪い薬がないか、効果が同じ薬をもらいすぎているかなどチェックできる等メリットがうたわれていますが、あなたはマイナ保険証に一本化されることについてどう思いますか。

S A

大いに賛成

賛成

どちらともいえない

反対

【必須/該当するものをひとつ選択】

大いに反対

20	マイナ保険証一本化に「反対」「大いに反対」する理由として、もっとも近いものを1つお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	<hr/> 情報漏洩に対する不安 <hr/> インフラ整備が整っていないと使えないため <hr/> 災害時等、オフラインでは使用ができないため <hr/> 受診時に持ち歩くのに抵抗がある <hr/> 別人情報への紐づけ事案に対する不安 <hr/> 紛失した際に、再発行に時間を要する <hr/> マイナ保険証として使用するための手続きが煩雑 <hr/> その他（      ）
21	現政権下の主要政策の一つとして「こども・子育て政策」が掲げられています。これらの政策は、こどもを持ちたいという気持ちを育て、少子化対策に効果があると思いますか。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	<hr/> とても効果があると思う <hr/> 効果があると思う <hr/> 変わらない <hr/> 効果はないと思う <hr/> まったく効果はないと思う

※現在の政府等について、あなたが感じていることをご回答ください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢
22	現在の政府に対する、あなたの信頼感 はどの程度ですか。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	<hr/> とても信頼している <hr/> 信頼している <hr/> どちらともいえない <hr/> 信頼していない <hr/> まったく信頼していない

23	<p>「信頼していない」「まったく信頼していない」と回答した理由として、もっとも近いものを1つお答えください。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>不祥事（裏金等）が多いため</p> <p>自己利益を追求する政治家が多いため</p> <p>経済が一向に良くならないため</p> <p>公費の使い方に疑問を感じているため</p> <p>国民の生活実態を理解していない</p> <p>政策に偏りがある</p> <p>その他（      ）</p>
24	<p>あなたは、現在の生活に満足していますか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>満足している</p> <p>まあ満足している</p> <p>やや不満</p> <p>不満</p>
25	<p>あなたは、これから先、あと何年生きていきたいと思えますか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>5年</p> <p>10年</p> <p>15年</p> <p>20年</p> <p>25年</p> <p>30年以上</p>
26	<p>これまでの人生において、あなたが、もっとも充実していたと思う年代はいつ頃ですか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>10代</p> <p>20代</p> <p>30代</p> <p>40代</p> <p>50代</p> <p>60代</p> <p>70代</p> <p>80代</p> <p>90代</p> <p>現在</p>



「高齢者の社会保障に関する意識調査」

とりまとめ報告書

---

令和6（2024）年11月発行

発行 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル6階

TEL：03-5470-6751 FAX：03-5470-6762

---

不許複製